物學和歌式

讀方詞寄

特別
イ4
3163
78(2)

貴
14
3163
78(2)

初卷

○戀

おもふれのひとをあかのうまこをあ又ハ人つてよせてをぬ事よ
とひそひるんとをもふむし無の空よりそこてハ人をひるよ
まうしふこ遠ハいとそひてハいるあんとをもひハ浦舟よこと
へていとふれそひるこをも又ハ社の森うをそむこうをを
つをあへ縁ハとそてハらしはやそあんこをもいつりもこてお
ゐなそそへてをも又恋のうへと物よをもをふこをしてをこ
さほよりかをを物のんこををひめくへをこ物
のんハ一をのうへをまつりていかををうを
をの初ハかをりハつしうハくふをうをすこ社をくをを思ひこ
ひる恋をひるふこをそひる恋をひる舟かこ初る舟かこ思ひを
初くこ初ふをあおこをひをうを物ふをめをらつををんこをを

悪惡

悪惡ハ心ニ悪ムヲウケ悪ムヲ受ケ悪ムヲ受ケ悪ムヲ受

殁慈

[illegible]

聞慈

[illegible]

兄慈

[illegible]

祈慈

[illegible]

弱恋

もあり
初瀬川、祇園川、賀船川、祇園ゆ、ゆ、ゆ、

[illegible]

名主癋

主無名癋

名のしられぬともらしたるこうしたるのしられぬ名なしき名

無名といふ人どもの人なきなのしられぬ人なきなのしられぬ人はあるべし

[illegible]

[illegible]

[illegible]

不逢恋

不逢恋ハひろき野しもなどてあるらんと或ハ
うさ糸のあやそこくるとも或ハそのゝゝのあそび
ものゝ事ハ人のこゝろにてこゝやらんなどと
もよもしく不逢恋ようてん命とよこゝ万葉ようの命か
ど侍ることのなるべしこれハ古今集よ
命やハなるゆゑハ秀のあて絵を見ずして人ハ恋くるあくよ
とゝ人のことなるのようてゝあるこゝろの歌ゝ命
とうてんといのんし其かゝのこゝろの浦でもなる元の
ゝねつれなきとゝ人のゝなるさゝ今ハゝやゝ恋よりて命
も絶ぬべきれバせめて後の世の歌と祈ひ世でもゝく
うくゝて人のつれなきハ歌乃世よつゝきむこゝハあるう
となるべきうくゝてのつゝさまこゝて恋ぬ命ハ祈りの来
乃命ことゝ教ゝやなども侍り

契恋

初つ恋ゝ中いつゝでと侍うてん命かなびゝ女中かよゝ
中かゝこ糸のあいなゝなるゝゝひよひものとゝ命れ
かゝこ恋ゝのゝゝ後の世とこのむあゝでの浦あゝでの表
契とハ誓詞乃ゝしいろけあいんと物朱もゝろこ恋よ
ひよハゝ命ゝびとゝ人ハちゝゝゝねどゝハゝゝよの中乃か
らひなれバ誓詞もこゝひやをゝとおぼつゝなきゝと
いひ又人の言葉のいつハりゝてもあれ我ハまことゝこ
のむとも又いくゝゝびゝ誓詞もこゝひねれど教ゝゝとと
又こ教むんちゝとこし
初こ教むいこのゝとく誓りこ

誓恋

ちゝゝこ恋とハゝ初恋でゝ侍うてゝ人の祈仏とゝ人
ちゝのゝし
初ちゝゝゝゆゝこ恋ゝてちゝゝ祈ゝこ

疑戀

うぐひすの色とハ人のこゝろとかさうらうこゝろかしの春の
くれて世にしらぬ人のこゝろをもねがうこゝろハ一きの
こゝろもいとひ又ハ我なら〳〵ぬ人なよやかのこゝろとこゝろか
こゝろもうめり

和さのちれどよそうるはかなびく

虞戀

さのひ色とハ人乃ちぎりとき寒よさのひと又ハ偽の
あら毒なぐさもいひ〳〵ふかさのさうこんとも
和さのまろうれ和さのひろれ

待恋

待恋ハ久ぐれとゝひハタハ人と待賀新なれぐし文
ひ方をとゝひハタよきゝうぐきハ人乃ちてゝぐ〳〵
文ひ方をとゝひとなくゝやし あうつきの方をとゝひ
こハ待恋ひたう〳〵 唯ぬるこし 恋ぐて 待恋ハ我
こゝひ ちきり 恋ても 偽ちよ 唯ぬれバ又やこゝひも

ひなゝ〳〵唯なんとなぐき又こゝひハうゝ〳〵とと
よきてゝぐ〳〵こゝよ唯ひ方をとゝ
ハ恋恋なくぐ〳〵 待恋ちうこゝ
和入れのうまハ久ぐれの方をとゝ
る袖やのとさこゝ恋ぐ〳〵 唯
ちハきて恋ぐ〳〵 恋乃ちうこゝ
ひふうちとけ恋るようこんと恋ひ〳〵 命もこゝひ
あひてハ又なくこゝうこんとを袖ぐひ恋ハ恋ぐ〳〵 ぬゝと
うゝ恋むの袖ひうゝとゝ 今ハうれさんとゝひ
ぐきて恋ハ〳〵 〳〵ぐひのあふこゝもぐ袖を袖ぐひ〳〵 とゝひ
ア恋ハ人のうゝ〳〵 〳〵ぐんこゝを恋ひこんなぐ〳〵
和中の袖ハうゝもゝ袖とゝる下袖ひ恋ちぐうる袖恋る

稀戀

家のちりつもりて苔むすとなる山ものさびたるさまなるを

すれなる恋とハ年をへて乃ちれかるゝんし家中の法を
ぐりと牧をふみて年月ふるしも又ハセタの年ゆ一
歌乃年深ゆなれ歌ゝてうゝむるんとも
朝すれなる中ゼタの年ゆさぐふつりる年月ゆ
すれなる松のちりつりる

別恋

別恋ハ今ゆ恋ゆ
ちりれて後のゝとゝ乃ハ後乃乃恋ゆなりるし千歌
と一歌ゆとゝもちりあ恋ハ乃乃ゆ恋のあをあ
又ゝあるゝちれとゝゝで乃ゆ乃初乃どゝゝゝを
稀きる星なゝゞきちれをゆゝやとうゝち良く
の社もひやゝうゝちれるゝてハせて又ゝん歌ゆとち
きりあるゝを乃家ゝりゆせゆきえもうせゞゝ

後朝恋

ひ歌ゆちるゝゝとゝのゝさゞひと社とゝ年
ゆつゝきちれとゝゝで年ゝとゝなるゝゝのめゝん
とゝゝやゝゝ有ゝ乃乃ゝれゝゝ社ゝとうゝゝ恋
ゆ社とひゝゝて社やの声も年ゝちゝ乃ゝとゝあう
羽乃乃社乃恋のゝまゝきゝぐゝゝゝゝ年の乃ゝ恋の
ゆゝきちれゝゝゝひゝゝる社社のゝうゝゞ

後朝とハちれてのゝら乃ゆゝゝゝ今ゝ別ゝゝんハ乃
別ゝゝゝて乃ゝ又ハゝゝゝゝゝゝ乃社ゝもゝゝゝ
ゆゝゝちれゝ社のゝうゝゞとゝゝゝゝゝゝ恋のびゝ芝のつ
社もおゝゝる風ゆ恋ゝゝ又ゝゝのゆゝゝれゆハゆひん
ゝゝと乃ゆゝゝゝゝゝゝゝて命やゝゝなんとなゞ
ゝゝと乃の乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
などゝ

惜恋

初かつをあるさかなの家にうれしこしかつをうるこゑをきくに

切恋

自然そひてやはらかなるこゑをもいひ又あいそをこゑにて後いとこゑの惜んとも

初やひそかにかくさいとこゑをきく袖の家をそ

むつましき歌く恋のなやせつなくさろかなれども袖

更やのせつよなりさやのれるんとうむがむつましきこ

大うさ命よりて今うとうとうかなりうんをといひ今うを

後の世とやかなどとうあり

思

初恋ねるよりる命後の世

片思

恋のやひとしよりうさやひと親よあくかしてうをうり

人かやかで初ひとうやうと

初あひもやかねうつを見うてーびひ拙して惜しよ

歎恋

いとしかなしとかなしかのこれとかくこうこうかがあこい

やしくれかいとふとも又家ながくうこうこと思れかい人

乃いとふもとかとかつなてもかこうこ

とうあり

初分をうくひうこうこをかなさうあさを舞あり

うやひかいひそてもかいうあひうあ物かかよなまく

やかかをうしせりかとうあ又をこてかいとこかのを

ひうこかうふかをこをめうこをうやーきうう又

かうれくまかなうかとも高で物まなうこうこのこうう

久て野うもうくくくかかのうよいでいうれくか

なかかうくくもうこてあさうかかのの恋を高せつ

るも今かうやーきなと高とうとこてくかき

しさあくてうこで忘とうあうーいうとかのてかを乃

恋

[illegible]

旅恋

[illegible]

戀慰

[illegible]

戀人のかたちの[illegible]

[illegible]

恨慰

恨のかたちハ初中後あり初の恨とハ人を[illegible]
くの事のそむくとうらむるとハ[illegible]
中のかたちとしてまり[illegible]
みくらゐと恨うんし[illegible]
[illegible]
[illegible]

同戀

戀命

夢戀

老戀

初人皇の紫宸の高殿かゝうつくしき浦波浦風
ゆゝしき恵まハ久敷の恵ともよゝこ又ひゝ〳〵盛こゝ人の
中絶て久しくなりぬゝとこゝれ世こゝ恵とも浦ゝ
世青あり
初世青有 年あゝこゝひゝゝの恵こ世ハ青ゝ
恵のいのちとゝ人皇命ゝ人と恵ゝ
初命ゝ人ゝ命ゝ世ハ
夢の中ゝ人ゝ人ゝ夢の中ゝ人ゝ
となゝ恵ゝ人ゝ恵ゝ人ゝ夢の中ゝ人ゝ
初ゝ夢ゝ人ゝ恵ゝ人ゝ夢の中ゝ人ゝ
老人の恵とゝ恵ゝ人ゝ恵ゝ人ゝ
ゝ人ゝ恵ゝ人ゝ恵ゝ人ゝ恵ゝ人ゝ
いひ世ゝ人の恵ゝ人ゝ恵ゝ人ゝ

初戀

書

となゝ人ゝ恵ゝ人ゝ恵ゝ人ゝ恵ゝ人ゝ
恵ゝ人ゝ恵ゝ人ゝ恵ゝ人ゝ恵ゝ人ゝ
しゝ人ゝ恵ゝ人ゝ恵ゝ人ゝ恵ゝ人ゝ
初世ゝ人ゝ恵ゝ人ゝ恵ゝ人ゝ恵ゝ人ゝ
初恵ゝ人ゝ恵ゝ人ゝ恵ゝ人ゝ恵ゝ人ゝ
ゝ人ゝ恵ゝ人ゝ恵ゝ人ゝ恵ゝ人ゝ
ゝ人ゝ恵ゝ人ゝ恵ゝ人ゝ恵ゝ人ゝ
初ゝ人ゝ恵ゝ人ゝ恵ゝ人ゝ恵ゝ人ゝ
初ゝ人ゝ恵ゝ人ゝ恵ゝ人ゝ恵ゝ人ゝ
ゝ人ゝ恵ゝ人ゝ恵ゝ人ゝ恵ゝ人ゝ
初ゝ人ゝ恵ゝ人ゝ恵ゝ人ゝ恵ゝ人ゝ

[illegible]

近憑

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なのへとゝ山のなとゝいはれる所のうへてゝ山のまはりをめぐりし
かゝとゝいへハ流さゝとゝ山とゝとゝさこの所をさ
の橋ハ長さ五十間ハ流さゝとゝ山とゝとゝさこの所をさ
ハゝとゝ山のあるとゝ山のあるとゝ山のある

実

そをのこうきさも実ぶとりつゝ来ろ〻ハ拾ひとゞげ
ざうしさあるかてあるかてあるて日本の孫ぶとる川松ひゞ〻〻
松村つるれらうどきたるき

実路といてろうハ路乃ふなきさあもあれど孫人のひろ
姫さ面又ハ実ひの心あるがよきさしこ実路のホハをれこ
と裏を実ひよ世本さなどき路実路のあつうとて庭をこ面
ふと分てはの実よりてとろ茶しはの実とハ茶坂
もぐらうてこ浜人しゆつうもとうひ伝いたれや
きの乃そ〻ぬとハひ〻ゆ玉茶ひ〻〻茶玉
よとくれ〻ゞ茶よきされてのれ〻ハ路茶との実よ
いとりぬけ実孫めたうんうどうハ人とこどもとる
よ茶葉茶り三千の客の中よ鶴のまねどう〻とろ茶
ありこれゞ孫ハきの浜中孫どしたんぶよこの孫きも

野

ひとりは孫ゆく実のとと聞てとそ〻ひりこれとり
きの乃そ〻孫としつゝこと実よハもひと実のたゞねと
ハ世本きの川ろうて実のともさゞひ来のきをこを
お坂の実ハ孫よりそ〻あるよ〻ゆうんゞとゝこ文茶
不茶茶よりもてもひし孫のとろ実の茶ひと実の
清あるゞ〻ど坂のこをし不破の実ハ孫れて〻実ものの
いこびさ〻もまぶ〻みなりねるゞとゝむ孫鹿の実ハ
孫とひつよつうて川ハ越るふり孫ゞこきゆうゆ
ゆゆゞどもそ〻ハ〻ろり白川の実ハ日数とうて孫りんとろ
ゆ

初ハゆゞでうこ〻ひるとゞこ〻ハきのそ〻ね
野狸といハ鼠ハ地の路し分ひとゞひなゞ出ひの
祈とそ〻むゞ〻野外ハ地とうゞハ孫ひしかの実ハ茶

一又社といふ歌よハ系と流てゝ〜〜〜

の流りし又なにはづのうらとよみしかの流ハ淀よりおくに淀あり
とのゝ山しるとぞとよみしハ流り淀し流り川と八実途
京川のゝ山しつゝくの流よりくだりくし淀とゝもしに
ハ淀よりのそこそ毎とゝ行んといひ角田川ハ武蔵国と
ゝ大井川ハ流淀の橋のゝ川あとゝあとゝ知
てゝ人の流るゝゝとゝ
朝舟行舟人舟ゝ
ゝ
しハ水ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ

る古のもあり橋とよむは澤田のながいしハ宗像
の仲来乃仏とよゝ今治橋ハ橋姫橋などゝよめり
いくぐのそゝ[illegible]ぬしとよむハそしハてそ
ゝつぐさ沖の藻乃なびくの橋ハいかゝ〳〵ゝゝら
ゝゝゝとよゝ浦乃の橋ハ今ハなくれど所あら
ぬてよゝ天のそゝしてまこの橋ハあるぬど橋
の歌ハ[illegible]浦の[illegible]
紀ひとゝ[illegible]ハ浦ゝ[illegible]
[illegible]川歌[illegible]ハ海と云歌ハ浦潟なとよむ[illegible]
浦潟と云歌ハ海といふ[illegible]
ひよ岩谷とよむ[illegible]
[illegible]ん歌ハ水海ハうむ[illegible]
浦潟潟なとあ[illegible]

歌ハ必潟のことゝよ[illegible]ても潟のことゝあバ[illegible]潟なといふ
も多のハ潟ハ[illegible]
[illegible]ハ龍邪[illegible]
[illegible]
つ潟ハ十潟なとゝ[illegible]
湖水ハ沖つ潟ハ[illegible]
ても[illegible]
[illegible]ハ海路といふ[illegible]
て沖ゆ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
沖の友和おさう舟つゝ舟[illegible]

湖

かゝる小舟、漕舟、つれ船、あまのそほぶね（朱ぬりのお舟）とりてさし
さゝ舟、船ちさきかりこし船（山の中舟の名）うもくあり、海くひ、海人、海や
まてとゝろことあり、海人のいとうびし、海人のまてかこ（十四まで）とゝろそ
まれ、後くあり、海人のとびこ、海人の海ろうこう、海人乃
しゝやや、あびこ（網と引しやさぎ）、ゆさぎ、夕なぎ、こゝろあり、うら
ゆる、玉藻、うる、玉ひろふ（貝の類なり）、真ひろふ、海人のこ
くなハ、こぐおとハ、櫂のなハ、こゝろ、こゝかなとハ、櫂とゆこゝ、櫂ゆ（櫂よあり）
けゝ、海の、朝、夕、弱汁

湖の、岸よハ、近江の湖、水の名、いつれ、ともゝむ、こゝ、あり
ゆ、てゝ、海、とハ、近江の、海、水の、数名、し、水海、のこゝ、も
さゝ、波ハ、見、又、近江の、海の名、目、し、そ、か、布勢（ふせ）の、海、磯
をハ、の、海（作法、多、拍、のゝ、磯、ともゝ、むゝ、
利、海、よ、ゆ、ゝ、山中、後、奥、こゝ、ゆ、ゝ、
なゝ、ハ、のゝ、ゝ、

山家

華厳経、ゆ、山家、山住、なゝ、こゝ、数、宝、まゝ、ゆ、ゝ、ゝ、
ハ、家、山住、僧、ハ、宝、ゆ、れて、社、法、ゆ、ゝ、こ、宝、ハ、家、あ、
あ、ゝ、と、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ハ、あ、れ、ど、ゝ、ゝ、れ、も、宝、と、ゝ、あ、ゝ、ハ、
華、宝、れ、ゝ、ゝ、ハ、ゝ、て、も、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、れ、と、社、山家の歌、ハ、作、
の、山、社、ゝ、ゝ、べ、こ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、
な、く、ゝ、も、山家、と、云、新、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、
山、ハ、居、住、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、
ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、
ゝ、と、ゝ、ゝ、ハ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、
ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ

園花

又ゑ〜くなりて公いたるこどもとうきせようとぶくてい
花乃やいもとげごうぶこうとうむぐ早下のゑそて
ろろ〜ゑ家ゑ我こゑ後ゑ花ゑ紙ゑ公いたるふゑよ
ゑぶゑれどどこぐ面しく世面ぐゑれぶんゑあるぐと思
紙人とゑ人ゑゑれゑさひ〜さ松風のゑゑれの水
ぜようゑふゑ松の戸松めとぶ栄のとゑのゑゑひぐ彩
彩乃ゑこゑ外ゑよ後ゑゑ紙と水ぶ〜

園花の歌よハぶ花いのゑもようこ市中乃園花ともゑれ
ど歌市中の園花ゑきなぐ〜ぶぐ園花の高ハ色も
ゑひ〜きゑと後ようむぐ〜或ハやぶむぐ〜ようこ〜ゑも
ゑて高後ゑ人もゑ歌ゑ蓮ゑさらゑゑ歌りゑひて
いぐ〜ふこゑゑゑゑぐてゑゑもゑぐてゑとぐさひ〜き
ゑといひて園花ゑりこきゑゑ家〜周中周世ぶれ

田家

高

もゑ家で園花ゑいふゑ〜又荒屋古御此
いぐ〜ゑ歌ゑもゑのようゑゑ紙ハ園花ゑ似ゑゑゑうかれ
ど荒屋ゑ御ハゑれゑゑゑと後ゑ後ぐ〜ゑ後うゑぐし
紙ぶゑハゑゑゑ〜ゑ蓮ゑさらゑさひ〜き松風

園秋ゑ出田家ゑゑ歌田の居ゑゑ〜ゑ歌ゑ田の居
ゑゑゑゑゑれハゑゑゑ居田ゑゑゑゑゑゑ高ゑ
ゑ田家ハ門田ゑゑゑ里情の田ゑゑゑゑゑ
田家のゑゑゑゑ表ハゑぐ〜苗代ゑゑゑゑゑ
早苗ゑゑ秋ハゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ
ゑゑゑて後ゑぐ〜牧秋田の後ゑゑゑ〜早
古ゑゑハ我りゑゑゑ〜園のゑれゑゑゑゑゑゑ
ゑゑゑゑ又ゑゑゑゑ後ゑゑゑゑゑゑゑゑ
後ゑゑの後ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ

てあれどうやどとさうでいうるべの名よりもあるも
ごいづれもあれどうてくんもとひこしとさひしらんと
後よりおし旅ようりいふ古さこも我ものこたれさ
ととさしていはおれしこのやうたれど旅ようこ
はあれどうんもいそどと絶ごての紀各別こ古ひとそ
ようあるこそは旅の古ひとはもむてくと
紅葉はあれて庭のようりぐ庭の流ぐむぐ荒し新
あれ水ひ絶水はとはあはふるを葉さひしさ

水ひとは川ごの葉とも川ごの村ともあ
ま又水ひの名流とぐるよいぐ葉のんなくてもらくら
らぐとあ意のんと後よもむ〜名流は淀川ふの川
今流川まさの流桂川ようれ文竹川立田川ようる淀
志賀の浦那波三流佐さ田川玉流川なとと流り

古寺

歌枕名所記 玄水記 詠海 倩案之不可然略 云
もろるよ詠海後寄本可流牛乃云流為狂陵ようる定歌へ
上下〜流太ひとう絶ようよ今のようふ前後ようと
あり流流とは那波なとと流ようと
紅は川の流ようと求むへし歌名流まさうひて義ようとう世ある
ようとべきし

古寺というるようるもるうしとようもるうもごるを
ようばれ竹しようるそうと後ようもうくうしうれ又名流と
も後べ〜名流はうつ世寺ようもうもうもうぜうも
後寺の文〜ふの大寺大和要寺ようう寺なとごうふうし城
なうふの墨はうりとる日ようう寺日くうの名〜日寺ようく
雲の寺日ムりるう寺ともさごの寺日さうう寺日ようは近江寺
ようの山紀伊名野山寺ようもうう義寺日なふの寺拾遺天王寺し

なるこゝる尾張のくにの藏法師者こゝろのうちに近江三井寺の山寺日ひえの山寺日は不名法師名法師
ゝとのゝくおもひうるもあるなゝてもむよ嶺はあるの水
とくゝうもの乃おもこゝろの愛とおもふこゝろこゝろ法
つゝんもこゝ物あはれる法のおももこゝろ法のとりしび
ゝこゝきうれやゝゝと照をなすゝし
和あうひもゝゝ志こゝつむもの故あうるもゝ山ゝ
佛のこゝのう法の故ハふこゝもむもゝぬうゝく法の師
かゝゝ乃松のこゝゝ乃ゝ山の声つもなゝぬせうこゝの故愛
ゝこゝうのやゝ
抑こゝ故の愛ハ志こゝの故のこゝ法のこゝ
いひ法のひこゝ志ひもゝ五百三十一字のなゝるこゝ先
要文乃ゝ法こんともひつゝぬるのなれハこゝてゝ

釋教

ゝくもあゝゝこゝなゝ乃ゝ法ゝ乃ゝ法ゝ乃ゝ法

社双

〔社双〕ふやしろ乃ふたとゝまでいふ和州歌枕に社双と
と紙と同事なれどもふたゝびゝろうしなる紙屋
ようめぐりの紙日とゝかたゝも主の紙色よりもむしろ社
双よハ後ゝしゝゝきいろなれハ紙よハ紙とゝぞ
もゝく紙ようゝゝろうとゝひてもおけりゝろう社
双とゝもむも学子細社双よハ紙というそいふけ社の
んとゝもむし社ハおゝゝきゝゝゝぐきひろまへゝぐきゝ紙
ちゝゝゝそ紙なゝしゝゝハおけゝしさて又社のふなゝれども
賀義書白石清水位なゝ品とさていゝゝゝゝ
らゝゝもゝて乃ふハ紙ようゝゝゝとゝひつゝゝ又ハ
紙書のゝゝゝもやもゝゝゝふゝひつゝけハ紙ゝのゝし
紙ちゝやゝゝゝゆゝゝゝゝ

ゆゑなきし又述懐よハ法乃我家のゐなつきての述懐
もよもむるし（仏寺遠敬寺有）これなつきて又ゐつきこゝ有る
さくハ寄侍人のおすゝ世て和哥乃述懐なりとゝ
こゝ有くゝ有きし世ゆゑ人よりゆゑられるを家代人
なくてハゐをぬるしこゝハ寄家代の寄よ
ゐつ過あられとゝゝ家ゐる法ぬ（きゐ）ゐのくゝ世
ゐゝのるしさもあゝぬ人乃道の述懐ハとこゝ有く
こゝるゝきゝゝなう人法ゐよりてけんゐるべし
和ゐき世ゐきゝづゝ世なゝゐ世ゐ寄ゐるゝ
外ことゐゐりてゐのくゝゐるべし

懐旧ハふるゝゐゐ和ゐなれハ我世乃むゝとゐひゐゐむ
うゝし人のゐくゐと寄ぶんともゐひし又ハゝぬ世のむ
うゝのゐゐともよむゐのくゝやゝゐるべし

懐旧

ゐ世乃和ゐのゐむゝ、ハむゝとゐる者ゐれ女桜（ひゝとゐ名月おれゐ）
西新、寄ひゝ、ゐづのゐゐ
無常もかれゝゝし無常よハ世のゐなゝぬゐとひろく
もひひゐさゝゐゐうて云人ゐとなりくゝんともうむ哀傷
ハさゝ世人とゝしなひてなりくゝんし愚の賢注哀傷
の寄ハゐ和も拙世りゝんと仏ふゐとともうゐ寄ハゐこそ
ゐゐんすゝゐとゐゐゝ文遠新世よ世ゐのゐ
ゐの寄なゐとハゐよゐてゐもゐくゐもゐるべし注文述
若なゐとの寄ハ和と和ゐゐんもゐるべしとゐ法と和と
て千世万代なゐとゐゝつゐゐゐむゐきゐハ和ゝゐと哀傷の
本よなゐゐれく和の有やゝゐゐむし人の洋なゐゐ
ゐゝてゐとゐゐゝゝゐゐゝゐ法ゐゆる和文文ゐゐゐゐく
なゐゐゝの和ゐとゐむゐすゐきし若ゐの寄ハハれのゐゐ

旅

緒行無為と祝しもそのかりとのたづくよとられたる
ふりとそひ若乃者水の流と命よとこゝへ物もさる者
ひまり弱よそわぬ事法とおぞろきぞ者ろ物のある
うなるきうけ分とさうろうつとこ乃むれきけ世ハい
なづま乃ひうよとれゝぬうといひあさけの日新
もまるとぬこうおさも松樹千年終るこちぬることとろへ
ハらつれもひこきさんと新金ゝあこゝの者る辺ふ
のくつりよ名人とうれしむなどさぬゝし
新ひられさひかしきあいるづよ石井火ふつのあいふ世
この世めるこるきひづのあゝひまりこ海沉るこし
ゆりうさ雲ゆつゝ乃ゝうりのゝの姫むか猛浪の姫
うなるつふおりてなるき世あゝこふさの不差ゝけ
旅省ハふひのやどりしやうてみるんハ井るまゝ山ふ

旅

と心とふろう芝枕松ゝね枕などいふもそのかし若枕
もて旅とりけし旅行といふハ路とり称とよゝ
旅省のふハ和遠し旅といふよハ旅宿旅ゆ
ふもし旅内ハ海旅の泊し一驛中といそこうハ長旅
のんし旅よハ一驛ふ中ハ近ふ
乃西後なるゝ和ハふ旅し驛中よハ近ふ
名ふるていふゝ俗ふん笠坂乃数ふもふふし名ふなるゝ
をふふ名ふふふ新よハ人ふふくふ新ていしるもふふく
笑新ふひ称なといふふゝひし
一旅よ名ふとふひとし海道をふの乃ふふふなれふん
ふとふひゝ名ふふ史海笠坂ぜふの八
世ふの志の系ゝゝふふやと川ふふふふふふふふ
川ふふの中ふ笑ふの中ふ志のゝふ宝ふふ成ふのゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

松

さて、こゝに松ぞ、いとゝ春のこゝろ、ものしるくの事を
はなとゝ、ふる雪の、うへにて、春の日の、気、会こゝ、ふもとの、
くゝんとつゝて、ものゝ、しきんと、ゆひ、べし、実、春、花、
の、ものも、音、氣、と、ものゝ、ものゝ、ものゝ、ひゝ、ゝ、ん
紅の、ものゝ、なゝ、ハ、ものゝ、ものゝ、ものゝ、ものゝ、
笑、ものゝ、ものゝ、ものゝ、ものゝ、ものゝ、ものゝ、ものゝ、
いゝ、ゝ、び、も、千、世、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、
と、ゝ、ん、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、
ゝ、ん、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、
ゝ、ゝ

いく万いく千秋八千歳ときよいひ奉る世界ちよ万代八百万代ときこゆ也

此外天象地儀植物雑物生数器具の部ともいへどもこれハ略ぐ〳〵ときこゆ

名所の事

一名所とハ歌よハ詠ぐ〳〵ひ名つけ物の美名とこのむぐ〳〵ど名所いく〳〵ひも花よハ吉野紅葉よハ吉田神社とかの等しとこれ名所とハ人のこゝろ名所の名ハ歌ていうわどもなぐ〳〵しき外情なぐ〳〵しく和よ十無してぐ〳〵もとめれば吉野吉田のかハなぐ〳〵もてしいかぐ〳〵ぐ〳〵ぐ〳〵

[illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

まて撰集なとふも入しとき〻大淀の浦も今〻
大淀の松はら〻くもあ〻あくまうこてのこもくるあ〻こうれ
住吉乃松はもなこうこと
住吉乃松のまつえとあ〻ぬ〻〻
なる〻の接れとこむてはり浪さしあ〻はとうつみ〻うり
はのこふ乃なうこ〻ぬ〻もつるし今ハ我ことなふ〻こうん
水茎流川よハ流れあれとも水なしと流つ〻さし
こあ世川ありても水なく秋終よ家こと落ぬしかりくハ
ひ〻の浪ぬりてい〻もけつゐてはようむ〻りんよハと云ハ
ひ代ひ〻浦〻と乃今ハなうさと多ゐれどもひ〻
のそ〻ふよもむ〻さしされど又浦あ〻こめて大淀の浦よ
松か〻といひ住吉の松よ浪久〻ぬう〻といひて〻など
あ〻こ〻いてく〻〻さなう〻ばやうまこ〻ひてよひ〻と

一愚問賢注名所物ハ雨雲なと云ハいつくよも有べけれ
ば別なくとしよりハるうこ〻あるべ〻〻ざんと其
者よ云雨雪と雲霞なとハいつくふもあるれなれども浦
つゐ〻〻ふ〻ふと可流の中是ハ是ハ〻〻〻〻〻〻
よ役ありこ〻〻よれ歌ねまこ〻雲ハとき〻雨雪雲
霞のこ〻ひいいづくのいいづくの社よもあるれなれ
奇とあるよ及ばるもだれ〻ハよこなれ〻〻ふて
〻〻ばよ役ありてう〻きとしこなれ〻〻名所とハ
雨ハ次ぬあ〻〻とかとてさしかぬ〻こふ〻こと
の白根富士のねのさ〻ひ雲ハ〻づ〻こいこはしのさ〻
ひし出ぬ〻〻ふんの歌雲てのうこまこ及名所役ある
や〻よ名あ〻〻てよひ〻〻とし
一同草木なとのなんとき〻〻〻ハ始てよ〻〻〻〻〻〻〻〻

衣笠中納言（為家）のやさしくゝ此世の女房心旅とうあるを
ゝこの名ぶそと云哥ハ彼三のとゝひるゝ及殊勝なるよし
時の哥仙さゝあるゝ一枝及たゝ玄者又ハ生死の
さゞしいかゝ又なゝ不もあれバよくゝなれさ
る彼三のなゝれいゝゝなれどゝゝひゝゝの名ぶあ
是ハ名ぶよりは素性ハれ新なりとゝ彼ゝゝあり別衣笠
中納言ゝ枕詞しゝまゝとゝ世のゝゝれゝゝゝ
さちくゝみゝゝゝ世ゝゝ深くゝゝゝゝゝゝ
ゝゝと女ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
の名ぶそれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
乃お意ゝゝバ彼三のなゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝのゝと彼枝ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

一巻斎は出只真面目のそこゝゝて八幡池のおりこのゝゝ不八ふ及
池ゝゝとゝ京乳ゝりゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
旅し但真仮の飛ゝゝと京ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝの彼三のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
是彼ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝもゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

一日又名ぶなゝ及ゝゝて真面目と彼ゝゝ枝ゝゝ物の
名の旅枝なゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
それとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝんゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
なゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

西とよむ法やうし物名の流格とゝ心ことゝ〳〵古今集の
物名よりこゝやゝゲハ
うゞ玉のよろこぶ[illegible]
ゆゝしのるゝなるべし又ゆゝしきれなく不有ハ白とゆゝこ
ゞて後べしとハ別言自法下ひゞくしの流まて
きのふゝ秋くるゝひらしの哥ゆゝそゝ流の白かこ
ゆゝしのるゝなるべし
ゆゝ和名とゝひよりそのん流のゆゝるゞやゝよゝ
べし或ゝゝ流ゝ流ゝ流ゝ和哥ゆゝしゝ又ゝ
名流よりひつゝゝ名月の初ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
れよハゝどゝゝんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝなん

ゆ哥ゝれ様のゝ
一八雲法移ゝれ第一のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

一
八雲抄中に[illegible]
よわづさしあうゝゝ[illegible]
て我んも知もなゝきうゝとゝ[illegible]

[illegible]

一
中ごろの和歌の時代のゝ詠者大概西行抄よりは[illegible]
中ごろハ後拾遺などまでの[illegible]川後百首その作者も
俊成卿定家の[illegible]
[illegible]
若も人のほよりゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]

九べきしし 隆川院百首作 云 拾玉集 云 前中納言 源国信 云 江帰 源俊頼 云 経平大夫 為忠 云 為季 云 宗俊 云 為仲 散位為忠 云 基俊 拾遺 源俊 大宮大后宮 肥後 一宮紀伊 兼盛 閑院 河内 也 云 拾遺 の 詞 ハ 代 百 ニ
乃 作者 の 手 もとろ へ き 作者 とる ま う こ き 作者 ある も し
とし 云 れば 万葉 より 後撰 迄 この 作者 又 隆川院
百 そ の 中 人 より てとるべ し とれ ら ん 後の 作 云
の 詞 ハ 中 詞 より とる へ し 又 古 の 歌 より とる べ し 拾
ゆ く 哥 ひ 作 る こ と こ そ さて 又 代 定 の 時代 乃 作 云
詞 な く べ こ と ん 共 代 集 の 来 歌 後 代 今 の 詞 と して
もとる べ き よ く 流 詞 の 大概 抄 ら し こ と
一 中 奇 ひ と り や こ の 次 第

一 井蛙抄 [illegible] 作 [illegible] 云 殷進 [illegible] 宮 抄 [illegible] 流 詞 の 大概 こ と 古 の と と
て ゆ く こ し き 詞 と 流 中 九 句 の 中 ま こ 句 よ 及 ぶ と
こ ぶ る こ と ゆ づ し げ な り 二 句 の ま こ と 字 字 字 こ れ と
ゆ る も と 花 色 と 云 ま ぶ こ と 同 ま と 用 て 古 の 詞 と 流 と
る ハ 合 れ く 花 と り て 月 と 流 じ 月 と 流 花 と 流 じ 四
季 の 詞 と り て 雑 の 詞 と 流 し 恋 雑 の 詞 と り て
四 季 乃 詞 と 流 じ と く 時 古 の と れ な 雑 れ
笠 流 詞 の 大概 よ
な く 異 用 あ り こ れ な 中 詞 の と と る 分 量 こ な 中 三 の 五 句 三 十 一
字 の 中 と 三 句 と る く 中 ハ 初 し 二 句 の ま 二 字 ま の 中 四
字 ま て ハ ゆ る も と 五 字 と い と る べ く ど と し さ て 又 同 字
と 以 古 の 詞 と 流 じ と ハ 中 の の 月 の 詞 と れ て 又 月 の
う こ と と る こ 花 の 詞 と と り て 花 の 詞 と と る じ い な し こ と
な 中 の 四 季 の 詞 と 雑 ま と り う へ な 中 の 詞 と 雑 の 詞

を花季よりとりくてよびてきこしいろまぜかれバかの花
花の香ととゝぐゝは花の香ゆえ月ハ月ハ月ハ月ハ月ハ
うつろひうつりまてなかの香のかゝるようなことなるれば
とこしなれどふるさとの香よハなかの花とりて花と混じ
香とうつて香とうつるとうつるとうつる香いろ和もあり別宴花鳥
月もあれどうれハ月の志ゆゑうつて初心のあるかゝるふハ
あるゝど別離庭訓抄定家作より花の香とやうてひまうつ
月とやうて月ようちんさのハ蓮花乃志ゆゑなるゝ
雲の香とハ秋冬なるなどふようくゝ雲の香とハ雑や春花
香なるなどゆうて志ゆゑしその香ととうれるようとやあるやうゝ
ようゝなるゝゝゝ

一　千ののこゝとうて九情とうてゝこの
古今　恋　千の　　後人しゝと
さしの　ゝ　ゝ　ゝ

返事の歌

一 遠所より出たる人に対したる家の内と家主よりこの人に対したる家の内と家主よりこの人に対したる家の内と家主よりこの

は寺返り神のなかばなるべし　法勝寺はこれ
又くのごとくなるべしとそれぞれもあるべくあられ
といふ神もあり

新古今

大貳三位

住吉の松ひとつもおのれをこそ千年の子にて慰さ
一文字ふむ〳〵とありつれば　ふしといふべきは人
のいとまぬとうらもとしをこそ　くらの年の初太方
刺して或は一句或は二字三字とりてもあらはし
後一条院善日行幸の時と東八院内行啓あるとして

法成寺入道

後冷泉院

大貳三位

そのころ世の人書日の用しるしあるもあるべくあられ

後一条院

くりかへす世の言ひしるや書日はの用しるしあるべくあれ
ばなり〳〵
ばかりの世の言ひしるや書日はの用しるしあるべくあれ
ばなり〳〵
ものぞ〳〵れうは　ばかりの世の言ひしるや書日はの用しるしあるべくあれ
どもくの神仏なり　ばかりの世の言ひしるや書日はの用しるしあるべくあれ
さるべき

兼歌の定後やうのもの　兼歌の定後やうのもの

一説　魏書　耕牛伝　云　兼歌の定後やうのもの

兼歌の定後やうのもの　兼歌の定後やうのもの

兼歌の定後やうのもの　兼歌の定後やうのもの

兼歌の定後やうのもの

しなとをとる花は自近付て来りてかどをくさ
るまよりて面白なる事のといぶ時は他人は月をこゝろとして笑
しる中よりおろ〳〵なるよりて人をこゝろにかけ
ぬれバ花も散うく退屈のいてくるし品歌をとゝ
しらんこゝろ〳〵ひ〳〵きよ〳〵ぬこゝろ
ひ〳〵きよ〳〵ぬこゝろ

一愚問賢選兼日の歌八月枝ぬれ八雑よ流ゝて人花
とゝく潤へし都度八時ゝ無有なさ程こゞ花ぬ
なをとまて花ゝ作ゝ人新各別ゝ
一近来凡俗商売の事八世ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵

さて又和寿ゝ初てゝごとゝ人の先ゝやとゝきやゝ笑
えて云ひけるうゝぬれどいとうてゝゝゝ道なれば必退
屈してやしるゝしらべて志賀とゝゝゝとゝ
ごしゝと古の先生のとゝいられ侍なるべゝしゝ
と云い賀とゝごゝあれいいゝゝゝゝもかゝのゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ後成の初ゝ文和寿の大聖文殊の所智恵
ゝりかゝれゝゝゝゝゝゝ祇代ゝりこのゝゝ古人先
遊のんとゝごゝゝ楽とゝしてゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝとゝして遊嬉もかゝてやとゝゝと
ゝゝゝゝゝんゝなゝゝゝゝゝの人ゝ係せごんゝ遊と
聖寿ゝ初入道実雄田雄退所特成なゝごゝゝゝ
表なゝゝゝゝて愚切賢注ゝもひゝゝゝゝれど又雄
雄雄ゝゝとのゝゝんのゝれゝ二面ゝの荒廃ゝゝゝゝ

ゝゝゝゝ古人の初ゝ寿ゝゝゝひゝとのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
くゝゝゝゝとのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

つくる事初学を学ぶ人〳〵とくあるまでさこと
しかるに初学をうるさきはあるべきよあ〳〵は
なほ志もすあるはおうぶかなるをもて勿論とんはて
ものをて早下せぬをなるようにしんのはまをせて
いひづくりて人の批判を受べきに抜自抄(作者後と云)
抄を云ハ人丸赤人よりも勝れたるとうきんとつう
めべし早下してハせられるべしとこそ
古し源氏家和ゲ物よ私の執きのゆるまあれと
くく古人のとし〳〵(抄拾芸の略記)

和寿学のすす

和寿の学と云よ付てハ法隆寺法花
とうゝしい詩書百家の書ともとくくもとんを云
学の物況しハいひくくしこれバ井蛙抄よ平井物を
推補宗会同文院及(東寺三宝院)(大政大臣基忠)作よ後及とうゝしひく

るよいづれ乃ともとうゝしといへども物よ蜜抄
なくさとハ陰自のすとし和寿のひととし又九條家下
兼実公の作よ文字乃学ハ法隆なるべしども又やさ
ばさハもあるべし和寿乃家名と云ものをいひうゝあ
うもうじさと作られくとしめひたるさ抄しまうゝば
和寿と藤原せんとおもうぐ定家なゝ〳〵とハ乃ゝ
きうとうゝ千載集序よ作ひたるとまのおるとと云
ようゝくふ見乃ゝるきふきのたとまかび志うのそれ
ヨリ乃歳のゝのゝきこのりとさとうふしもあゝび民
ものゝよ我ら抄あまり七文字の内とうてどーてんよ
ものとととこのゝまうせていひつゝぬるなゝひくこと云
又和寿を剃抄仮名を承延入乃ゝ抄て藻会九大臣人
送〳〵れ物ら一段の中よやまとこの乃ゝハをく求め

ひろくけうをよあつめどとゝけることは言葉を行ふ様
を用ひるなれどなほ古今の歌の言葉ごとに後べきよあつめどとゝ大和言葉
文と求めひろく辭賦の言葉などつゝもべきよあつめて
の言葉を用ひの言葉などと飛ばして後べきもいとゝ
取ればとゝ言ふこゝろをいとゝ
とのやうにはけうを志ふ人はいかでかんけんとゝ
是四書注に来藤の人はいかで情性とゝ
こゝ集などゝと藝ごとゝ
神と学藝ごとゝ先とせんけう学ばよい所物より
しもゝとゝや巻一冊よりて用なりとゝ
る女学ばるとゝもじゝとゝ
古今闇斎注師文学注師とゝ

ゝゝゝばゝけうゞ藝ごとゝ
ろざゝゝば先お後の言別なゝいやゝ
師のせゝいとけうて先生は後ゝとんひゝ
言葉に奇ハ作やゝと知て八一数ゝ
じ先言ゝ後おゝめゞゝと
ゝと知ばれば奇ハ後を
ゝき枝木ハあれど家の作やゝと言ゝ
ゝ月ゝ作やゝと言ればゝ
ゝゝゝさて言ゝ
ゝき書れどハゝ
ゝゝ集ども又ハ物
ゝゝゝきゝけうて
も知と言ゝざる

[illegible]

哥と淡の跡のる

出典不明 出哥とよむは跡分所要〻英門歌新抄

和哥の詞の事

[illegible]

小もらすしてくるじくのて涙なくしのべー立なげく歌
しう川ずしてうくこなどの分と見るるてうくこつりね
出バ時の時法式ぐひるやうよそしてもしてうる海
出ぬるあてト何変もしてせよ如て浦なうきるるあて伝
えべーうつつの引さいくで志ざ海のううハーさと以て
ううとうるあてト有くさ海よも有くさじうくじて
てうむべくもとき哥人などあん所よて立流有
うくむ歌となくもしべくもべ細く産と立べくもべ仏
のうるも優淡離の感義として伝ることも又西行紛
花今楽まて立の乃乃陵美せるる淡なをせる程の作
去なれとも此産さハげーとて一の雅とせりしの第と
勅撰ーてうくなるむべきとて

一詠歌大概 作 定家 詞以用可用 約不可出三代集以上之所用 新古今古人方用可用之

とゝ云歌寄の詞はいくさびもあるべくよろこなれうゝ
つゝき詞とりてつゞくべきしたくらこなれぬ
詞とあつくしくつゝいてはあるべしうつて式
ときてはあるしきつゝ詞はいづれと用ゆるぞとゝ云べ別
定家卿の歌より詞以用可用と云下乃山出より詞不可出
三代集以上之所用新古今古人方用可用之とゝ云これ
よハ源をさゝうありとゝ云べしとも此大抵とゝ云所ハ和歌
ハ可用詞ハ古今集後撰集拾遺集之三代集之詞
と可用其外新古今集とも云し三代集此の方人
の方なゝハ可用とし新古今とさしてのみハ新
古今ハ定家卿代の集しされば代の集とも古
人の詞なゝば可用といふ人しるしてこの詞ハ千方

無量にして三代集のみもの用てその言なるを云
ありとゝ云とも定家代のうやうなる量と定めるよハ
源をさゝうあるよゝ歌詞よくくしくしく注しのゝり仍
今ハ初学の人寄と源をんとゝ云志ハ云れどいひつゞく
ざる詞とゝ云べざれバとゝ云人ありさうの人の方ハ
よも又ハ二句もとりわしてゝ云とせんよも三代集
ゝ別要ゝ云べ云れバ三代集の内大略とゝ云して初心の
役覧とゝ云三代集ハ世乃流布のゝとゝ云もの初
心の学ハ不及抜歌さゝ云ハ撰出めた

三代集詞寄　古今集　後撰集　拾遺集

一肩付之例

一ハ春之部の方ゝ　十月　アキ　秋　フユ　冬　コヒ　恋　ユフ　夕　旅　力変　哀傷

尺　釋教　不　祇　長　長歌　牛　物名　作　俳諧　定　疑　別　別離

雜八 雜春 雜ナ 雜長 雜ツ 雜秋 雜フ 雜冬 雜コ 雜恋 雜カ 雜哀

ひくらしハけ初の中一句とる時ハ季詰二句つけて
とる時ハ中ゆれの源格也ゆゑ句ハ四季の句
と無雜ゆ添ゝ無雜とれて四季と混もとる仍紙
分の考るゝ如し又句の一ゝとゝうんとゝつゆハ中
ちと考るゝ如ゝ後ゝ捨 捨遺

一古 古今 後 後撰 拾 拾遺

一二三 中句の二三句し 二三 二句のつゝき 三句 四五 三句ハ四五 一句ハ愛記
けるゝるハ中句の一二句と仮三句ゆ無下句と旨
よとり上句と下句ゆ無ゝ中句れの法式也初句
付とゝて句の無仮とりつゞさ為し

○春

古ハ 春ごとゝみ
古ハ 春きもて
古ハ 春ゝとも
拾ハ 花のゝゝて
古号 花のゝゝ
古ハ 白ゝ春ゝ 拾
古ハ四五 ゝゝゝ涙むハ
古ハ一二 ゝゝゝ春ゝ
古ハ一三 ゝゝいゝゝ春ゝ なゝれば
古ハ四五 いゝゝ ゝれゝの
古ハ四五 いづれと拾と分て拾は

古ハ 春の拾ゝ
古ハ 春ゝるゝを
古ハ ゝゝかの中
古ハ 花の法ゝも
古ハ 花のゝと
古ハ四五 ゝゝとも
古ハ 春の ん て
古ハ 春て拾ゝ
古ハ むこゝ ほや
古ハ むの ゝ
古ハ 花し 花ど
古ハ 花と 拾ゝ
拾 ゝゝゝ又ゝゝ
古ハ 春ゝゝ
古ハ四五 ゝゝゝ
古ハ一三 ゝゝゝ
古ハ一三 ゝゝゝ
古大ゝ所二三 ゝ ゝ
古ハ一三 ゝ ゝ
拾 ゝゝ又ゝゝ
古ハ 春の初花 波又ハ拾宝とも
古ハ 春ゝゝ
古ハ むの ゝ
古ハ 花と 拾ゝ
拾 ゝゝ又ゝゝ
古ハ ゝゝ
古ハ一三 ゝゝゝ
拾ハ一三 ゝ ゝ
後八二三 ゝ ゝ
後八四五 ゝ ゝ

秋八ノ五 いくりくバ後ハ春も社あれ
秋八ノ三 春くらして物ふる雨さハ
古八ノ三 春のひかりも知ぬまに
後八ノ二 春毎よかり出つゝ鳴
古八ノ三 春霞名ハたちくさふ
古廿ノ五 春のゝ山乃端と共つゝ
古八ノ二 春霞さゝやいばしこ
古廿 春ざれハのつよくさく
古コノ五 春のやとてなゞめたつ
古八ノ三 春のゝ草れむりくゝぬ

秋カノ五 いくゝ斗れ春とあらん
古八ノ三 春やとき花や遅き
古廿 春ハ霞よゝかびうれ
秋雜八ノ三 春のゝ所ゝ求むと
後八ノ三 春毎の咲よりあるる
古廿ノ三 春霞さらいでゝ花ぐ
古ゴノ三 春霞ゝかゝ川やア
古八ノ五 春ハ幾うもあしとゝハ
古八ノ三 春のゝ山ゝよ神うよハ
秋八ノ三 春とゝ花ハうゝ

後八ノ三 春ゝ鶯ぶうれ花ゝ
古ノ五 春よ知れ花を鶯
秋コノ三 春のあゝとゝ行ゝ
古八ノ三 春霞ゝうゝ乃山
後八ノ三 春の張乃ゝ乃文
古八ノ三 春霞立うらいん
秋廿ノ三 春の始ゝられ
後八ノ三 春の美ゝうかた
秋八ノ三 春ハ物ゝ春ゝ知
秋八ノ三 春とゝ花ハうゝ

秋八ノ三 春立とゝ花ぶうゝ
古八ノ三 春の山ゝ春りあん
古八ノ三 春ゝ知ゝ人ゝ
古八ノ三 春霞立とゝ花ハ
秋廿ノ三 春風の名ゝ春ハ
古八ノ三 春の山ゝよ打ひとゝ
古廿ノ三 花の山づゝ花ぶつ
古八ノ三 花の名ハうゝ花ぶ
古八ノ三 もの春ゝ春ゝ
後八ノ三 もみあゝ春ゝ

後八ノ三 春ゝ鶯ぶうれハ揚川
古八ノ三 春ゝ春ゝ花ぶ
古八ノ三 春の山ゝ春ゝ
古八ノ三 春の月乃美よ
古八ノ三 春霞なゝ春ゝ
古八ノ三 春毎の春ハ
古八ノ三 春ゝ知ゝ人ゝ
古八ノ三 春ゝ知ゝ人ゝ
古コノ三 春ゝ山ゝ
古八ノ三 春ゝ花ハ
古八ノ三 春ゝ知ゝ人ゝ
古八ノ三 春ゝ知ゝ人ゝ
古コノ三 春毎の春ひとゝ
古八ノ三 春の山ゝ出て
古八ノ三 春の春ゝ花乃
古八ノ三 春ゝ花ハ
古八ノ三 春ゝ花ハ
古八ノ三 春ゝ知ゝ人ゝ
古八ノ三 春ゝ知ゝ人ゝ
古コノ三 春ゝ知ゝ人ゝ
後八ノ五 春ゝ山ゝ
古八ノ三 ひとゝ花ハ
古八ノ五 ひとゝ花ハ
秋八ノ三 ひとゝ花ハ

古八二三 もの思ハ[illegible]なぐ〜
古八二五 もぞ着ぬ[illegible]
後八二五 もうんとしも[illegible]
後八二三 もの後よ[illegible]
後八一二 もうんとも[illegible]
後八二三 もうんとも[illegible]
後八二三 もうんとも[illegible]
後八二三

後八二五 千年とうをてさかる花
拾八二五 ぬさともむの花を張さん
古八二三 家も家かんてさうり花
古大哥 うら枝さしおちしなる梨
古八二五 うくひすそなで鶯ひらる
拾八二三 門の後よめをやぎの
拾八二五 塩根の苔も春きたりう
古八二五 うとうる沢をも春の花も
拾八二五 うぐひすてゆうんる人の落
拾雜八二五 塩根の柳春きたるる雁
古八二五 春はるをるぎ物と
拾八二三 ぬ知ぬうそ白しむ
古八二五 家いろの宮をよ巻そ
古八二五 春やハむりてぐれれ
古二三 家のまうるのろいも
古八二三 春日野よりれつこう
古八二三 家ろ川春のしべ
拾八二三 うとうとのも春の
古八二五 うぐひすてゆうんる人の落
拾八二三 塩ぐしてのうんる花
拾八二三 塩根の柳春きたるる雁
古八二三 ぬれつぞ春のてあつ
拾八二三 家やどの八重ろ山吹
後八二五 ろるるもぬぬ春ぐか
古八二五 ろの芽のつまるる鶯
古八二三 家宮をの鶯れちづえ
古八二三 家ろ川春のしべ
古八二五 うぐひすてゆうんる人の落
拾八二三 鶯ぬるてのろ山吹
拾雜八二三 家ろ川のあるる
拾八二三 家ろ川のあるる

後八二三 塩ぐしてゆうんる人の落
古八二三 家の家ぬるるるるる
後八二五 うぐひすよるるるる世 拾雜
拾雜八二三 塩ぬるるるるるるか
古二三 世と春しなるるるびん
古八二五 ぬれてるとんるる人の落
後八二三 谷宮をるいるるるるる
拾八二三 ろるるものるるるる
拾八二三 子りるるるのるるるる川
古八二三 ぬるるるるるるる
後八二三 春日野よりれつこう
古八二三 春日野よりれつこう
拾雜八二三 家ろ川春のしべ
後八二五 家ぬるるるるるる
拾雜八二五 宮殿の井沢るるるる家
古八二五 雛ろ八春ぬるるる世
拾八二三 さるの浦の藤るるる
拾八二五 ぬるるるるるる家
拾八二三 ぬるるるるるる家
拾八二三 つるるるるるるる
後八二三 なるるるるるる花のるるれる
古八二五 なるるるる橋るるるる
古八二三 ぬるるるるるる
後八二三 ぬるるるる猫の猫るる

後コ二之 湖水を吹そぬけてこゝにあらん
拾サ二之 なれるもこゝを松づ川
古八二 松がえをれをもみしぬ
古八一二 松うゝまきのうらぶひす
後八二五 松の枝をおりつゝとてん
拾三之 君がとづこいくとを
古八三之 君が代のうゝえぐ波
古八三之 君乃こゝにあらなゝぐ
拾オ一三 君乃をつくらえぐ
拾サ三之 うぐひすの花の衣
古八二五 ゆかなる春の新かくはな
古八二五 ゆらどもいまぐこ春の海つく
拾八二 しゝきさ代放さゝ松
後八三之 松がえをうゝきうふとれや
古サ二五 くゝひとのこゝをまつ依
古八二 君乃こゝ世のやどり 松
古八三之 君が代のうゝえぐり八
古八二五 君をの谷ちりつる
拾サ三之 君のやとりてゝゝえぐ
後八一三 君をよゝとあひうゝぐ
拾八二三 松の葉をゝつ乃
拾八二三 松むしろそなぐ定
古八 しめのもれびのさ
雜三 松むしろふ社さつま
古八二三 君の葉をゝつふ松
古八二三 君乃ぬゝふてゝふ葉
古八二 君をれば乃のびとる
古八二 君乃谷ちりつる
拾八二 君のやとりてゝゝえぐ
古八二 君乃ひゝくゝと

古八二五 うゝうふむよ乃で吹ゝ
古八二五 みゝ乃緑で色ゆゝ
古八二 ゆゝをれくゝうぐめでゝ花
古サ二三 後ハ松ゝくゝみなゝむと
古八二五 松てゝぐんとうゝゝと 松 後
後八二五 おもつゝ乃ゝくもひ流ゆゝて
拾八二五 ゆゝひ乃をぬをれのうゝれ
古コ二五 芝の乃ゝうゝゝし老ハも
拾ア二五 ゆゝ乃ゝをれぞちゝゝ
古八二五 ひよ乃葉もなく成よゝり
古八二五 うゝうふむよ乃で吹ゝ
古八二五 みゝ乃緑で色ゆゝ
古八二 ゆゝをれくゝうぐめでゝ花
古サ二三 後ハ松ゝくゝみなゝむと
古八二五 松てゝぐんとうゝゝと 松 後
後八二五 おもつゝ乃ゝくもひ流ゆゝて
拾八二五 ゆゝひ乃をぬをれのうゝれ
古コ二五 芝の乃ゝうゝゝし老ハも
拾ア二五 ゆゝ乃ゝをれぞちゝゝ
古八二五 ひよ乃葉もなく成よゝり
古八二五 うゝうふむよ乃で吹ゝ
古八二五 みゝ乃緑で色ゆゝ
古八二 ゆゝをれくゝうぐめでゝ花
古サ二三 後ハ松ゝくゝみなゝむと
古八二五 松てゝぐんとうゝゝと 松 後
後八二五 おもつゝ乃ゝくもひ流ゆゝて
拾八二五 ゆゝひ乃をぬをれのうゝれ
古コ二五 芝の乃ゝうゝゝし老ハも
拾ア二五 ゆゝ乃ゝをれぞちゝゝ
古八二五 ひよ乃葉もなく成よゝり
古八二五 うゝうふむよ乃で吹ゝ
古八二五 みゝ乃緑で色ゆゝ
古八二 ゆゝをれくゝうぐめでゝ花
古サ二三 後ハ松ゝくゝみなゝむと
古八二五 松てゝぐんとうゝゝと 松 後
後八二五 おもつゝ乃ゝくもひ流ゆゝて
拾八二五 ゆゝひ乃をぬをれのうゝれ
古コ二五 芝の乃ゝうゝゝし老ハも
拾ア二五 ゆゝ乃ゝをれぞちゝゝ
古八二五 ひよ乃葉もなく成よゝり
古八二五 うゝうふむよ乃で吹ゝ
古八二五 みゝ乃緑で色ゆゝ
古八二 ゆゝをれくゝうぐめでゝ花
古サ二三 後ハ松ゝくゝみなゝむと
古八二五 松てゝぐんとうゝゝと 松 後
後八二五 おもつゝ乃ゝくもひ流ゆゝて
拾八二五 ゆゝひ乃をぬをれのうゝれ
古コ二五 芝の乃ゝうゝゝし老ハも
拾ア二五 ゆゝ乃ゝをれぞちゝゝ
古八二五 ひよ乃葉もなく成よゝり

古八二三
山ぶきのはなさきにけり

拾遺八二五
山の桜はなさかりなり

古八一二
やどらうく桜のむらもと

古カ二三
やどよりさくむめのはな

後八二五
柳の一もとをたづねこしかな

後八二五
よくこそこゝろの山に雪ふる

古八二五
行人のゝみやをたれかな

古八二五
ゆふこゑに桜ぬるばかりてあ

後八二五
ゆふかすみ春のこゝろ

古八二五
こゝろやいろんとしやいに

拾遺八二三
山がくれなりさきにむ

古八二三
やまぶきのはなやまもとのむ

古八二三
柳さくらのはなさきにけ

古カ二三
ゆくとも春のこゝろ

後八二五
山吹のはなのさかりに

後八二五
よはにうくなる人の雲の

拾遺八二五
よくこそ柳とられぬ宮の声

拾遺八二三
松のゝまにかくれしもの

拾遺八二三
春ふかきはなのはなの

後八二三
ゆふかすみ春のこゝろ

後八二三
花のうらうとうとうとて

古八二三
春くしもなりやの

古八二三
こゝろのはなのはなの

拾遺八二三
こぶきのむらの表

古八二三
山ぶきの柳のさきにけ

後八二五
山吹のはなのさかりに

拾遺八二五
ゆふくる柳に宮の声

古八二五
行人柳ゆふかすみ

後八二三
ゆふの山ぶの柳花

拾遺
二三三三三三三三

古八二三
春ふかきはなのはなの

拾遺八二五
くれて白ゆふ柳

古八二三
ことしのこゝろ変むかしにて

拾遺八二三
春のきちらうらうとる花

後八二五
くるしかる変むかしにて

後八二五
散はなのれる花咲はなかり

古大三カ下二三
青柳とうとうとふかうて

拾遺八二五
あやかの一家宮ゆふ長

後八二三
ゆふくて春の月とひとし

古八二三
めしハ雪ことそ源氏まし

拾遺八二五
あしたのゆふくれやくるる

古大三カ下二三
ゆふしきとて山ぶ先

古八二三
このめも春乃宮ふれば

後八二三
このめとてもねをぞ鶯

拾遺八二五
ひ春ぶかりかきとる

古八二三
柳ちらうとうとる

後八二三
青柳の春のうらうとて

古八二三
柳ちらうとうとてちらうとる

後八二三
ゆふくて春の月とひとし

古八二三
陸とども春でふうゆ

古八二三
あるゆふくれ

古八二三
柳ちらうとうとる

古八二三
柳ちらうとうとる

拾遺八二三
春ふかきはなのはなの

古八二三
春ふかきはなのはなの

拾遺八二三
青柳乃いとのうらうとて

拾遺八二三
ゆふくるかつらをを

古八二三
柳ちらうとうとる山べを

古八二三
柳ちらうとうとる

古八二三
源氏ものがたりうとて

古八二三
柳花とくとくとなる

古八二三 桜ちるはるかもりかく
拾八二三 さくらの本の花ちる雪
拾雜八二五 さくらの花ちるかぜ
古八二九 咲ちしさかりかぜ
古八二五 咲ちるさくらかぜ
古廿二三 咲ちるめ一時ちるのちぶ
古八二九 雪ぶとはるとも花とまと
後八二五 清水の底の影とまる
後つ二九 ものすつかるむかるる
拾廿二三 みはしのもるかつひん

古八二三 桜ひかりひてりを
拾八二三 桜ぐう面いふりさね
後八二三 桜影ちるかるくこそん
古廿二三 さくらかりひつくを
拾八二三 咲ちるどとそおくん
古八二三 咲ちるやはるかぬ桜がれ
後八二三 ちるとし影のあとそて
後八二三 ちるあとおとるかは
古八二三 雪の間も花とあるる
後八二九 ちるねはるこそ
拾八二三 雪の間は雪ちるう
古八二三 雪とのこ降ごれるとむ
拾八二五 影で雪の降如ちる

古八二三 桜影咲ちるとしを
拾八二三 桜むかみなれる
古八二三 咲むいちとさかう
古八二三 咲ちる後雪の一つり
拾八二三 咲ちるはねはあしを
古八二三 ちるのはるこそ
古廿二三 山ちりてそのちる
古八二三 雪の間は雪ちるう
古八二三 雪とのこ降ごれるとむ
古八二五 影で雪の降如ちる

古八二三 ちるとしをさてるむ
後八二五 影ちるかるとどるとを
拾八二三 ちるはるかるる桜
後二二三 雪の花ちるかるる
古八二三 ひかりのどをを雪の日に
拾八二五 桜ちるをむかるる
後二二三 日はむかのねはかりかして
拾八二三 ちるのねの長き雪日

古八二三 ちるとの人の雪を堂の桜
古八二三 ちるの人ちるん桜
拾八二三 ちるとちるもの雪影
古八二五 ちるちるとの雪影
後八二五 人の影ちるは雪ちる桜
後八二五 人のんの影も成ちる
古八二三 ちるちるとの長き雪日

古八二五 影はのんのちるかるちる
拾雜八二五 雪ちるの長き雪の日
古八二五 ちるの雪とのんやはん
古八二五 影ちるねは雪を明
拾二二三 ひかりは影雪ちる
拾八二五 ひかりの影ちるかは
拾雜八二三 ちるの世の雪の影を

○夏

古十 なつのはるぬと 古十 ほとときは 古十 なつ鳴を 古十 ほとぎす鳴ん 古十 なきて夢 日

古今 あかつきのむ　古今 さつきまち

古今 ほとゝぎす　古今 なくこゑ　於十二 聞と　夜ぬる家　夜乃む

古今 いつしかとまちてなくらん　後十二 人うゑまよひくるれ　後十二 いそぐ　後十二 ほとゝぎす

古今 ほとゝぎす　古今 なくこゑ　於十二 聞と　古今 なくこゑ　後十二 ほとゝぎす

古今 ほとゝぎす　古今 なくこゑ　於十二 聞と　古今 なくこゑ　後十二 ほとゝぎす

古今 いつのまに五月さね決　古今 いそぐ　後十二 ほとゝぎす

古今 ほとゝぎす　古今 なくこゑ　於十二 聞と　古今 なくこゑ

五十二
春山のさくらの花の
昔の人の秋のこがれる
うのはなのうきよのなかの
くもとしられぬ
くもゐのかぜのこがれ
大和なるかすみのうちの
山ぶきをいつくさなん
春のしもかそこうん
おもかげにかくれぬるとも
春くれぬ

五十三
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

五十四
春雨の
おすれば
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

五十五
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

五十六
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

五十七
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

五十八
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

五十九
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

六十
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

六十一
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

六十二
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

六十三
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

六十四
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

六十五
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

六十六
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

六十七
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

六十八
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

六十九
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

七十
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

七十一
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

七十二
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

七十三
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

七十四
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

七十五
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

七十六
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

七十七
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

七十八
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

七十九
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

八十
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

八十一
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

八十二
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

八十三
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

八十四
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

八十五
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

八十六
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

八十七
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

八十八
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

八十九
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

九十
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

九十一
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

九十二
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

九十三
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

九十四
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

九十五
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

九十六
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

九十七
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

九十八
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

九十九
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百一
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百二
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百三
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百四
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百五
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百六
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百七
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百八
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百九
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百十
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百十一
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百十二
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百十三
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百十四
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百十五
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百十六
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百十七
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百十八
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百十九
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百二十
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百二十一
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百二十二
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百二十三
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百二十四
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百二十五
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百二十六
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百二十七
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百二十八
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百二十九
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百三十
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百三十一
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百三十二
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百三十三
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百三十四
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百三十五
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百三十六
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百三十七
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百三十八
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百三十九
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百四十
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百四十一
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百四十二
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百四十三
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百四十四
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百四十五
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百四十六
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百四十七
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百四十八
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百四十九
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百五十
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百五十一
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百五十二
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百五十三
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百五十四
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百五十五
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百五十六
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百五十七
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百五十八
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百五十九
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百六十
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百六十一
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百六十二
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百六十三
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百六十四
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百六十五
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百六十六
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百六十七
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百六十八
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百六十九
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百七十
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百七十一
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百七十二
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百七十三
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百七十四
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百七十五
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百七十六
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百七十七
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百七十八
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百七十九
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百八十
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百八十一
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百八十二
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百八十三
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百八十四
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百八十五
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百八十六
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百八十七
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百八十八
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百八十九
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百九十
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百九十一
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百九十二
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百九十三
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百九十四
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百九十五
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百九十六
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百九十七
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百九十八
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百九十九
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百二十
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百二十一
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百二十二
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百二十三
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百二十四
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百二十五
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百二十六
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百二十七
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百二十八
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百二十九
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百三十
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百三十一
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百三十二
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百三十三
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百三十四
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百三十五
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百三十六
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百三十七
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百三十八
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百三十九
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百四十
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百四十一
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百四十二
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百四十三
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百四十四
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百四十五
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百四十六
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百四十七
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百四十八
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百四十九
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百五十
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百五十一
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百五十二
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百五十三
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百五十四
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百五十五
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百五十六
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百五十七
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百五十八
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百五十九
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の
揺よりうつるうつせ乃

百六十
春雨の
春の宮ぬ
雲のうちにかくれ
春雨の
大和なる
春人のそなれる
やどりせしひとりかも
二夢とも
春の宮の

たてのことと名おくぶ　人もなのくのおりろう　人まつ　ふるがあれば
人ごとはなりのくさの　初ちよ家よ多かせそ　雨の景とくされば
りの時下草ありあひて　せとのおくへのくし

○秋

いおくの家よ　いおくのそをいてゝ　ちぐのくさに　月のをきに
ぐうしてよ　こがあきに　月とこそ　月のつほ
明ぬるうう　出のあきれば　うつろふ秋よ　めへとを　くる秋とに
おくさとあれ　てう浦くん　おくをとれや　おくをあくさ　おくをあんん
秋はかの　秋くろしに　あまてろ月　秋をかなよ　秋はよろ
秋の秋おく　秋をぬや　せくよそそうぎれ

いおつまの光のるふも　今やりらんを月の弱　今やまがきの菊
いつくは秋のもしてふよ　いつおをせをの時よ　何の方ちまくも後
稲葉そよそて秋の夜　をくろる秋の菊とは　いさ国くはひこみん
つくらくを織ぐる秋の紅　ひ葉をのいろあくさは　ひ葉なとの数て拓く
初秋ぐりの三ぐつん　藤ぐひらくんとの　そをの二八葉なれ
もこそてくわはくん拾ぬ　初下今ぐきこもなく　そをの秋家色
くぐさの雪ぬくんと　ひ仕をまあひしきく　初秋の雪のぐらせう
くくろうの蛙色の月　藤のを葉もくろふれ　ひ葉ちのくんそそ
秋のを葉もをまくろう　神のはうの雪やまあり　初下ノくさ時ちノ
萩のをのはのをりくぐん　萩のトのをとれくん　くをとろ去の有の金

秋歌二

もてこの露とわけつるべかめ

左アヒ七五 屋も色も秋のくらべ

後アヒ七五 稀ならぬこの山の里

左コ二三 かめとと聖とをつまの

左アヒ七五 ちよもいてて秋くれば

後コヒ七五 年くれはこひ濡そてをせと

後アヒ七五 年の後ひとつ一枝乃

後アヒ七五 あ[illegible]備くなれる秋萩

左アヒ七五 どの[illegible]位のくひて色や

後ヒ三五 初雁と命とさのむ

後アヒ七五 むのきくあらしちる紅葉

左アヒ七五 稀ならぬこの山の里

後アヒ二三 屋の秋萩ちるぬかり

左アヒ二三 ちよもいてて山とりて

後アヒ二三 ちよもいてて秋くれば

後アヒ二三 西ふき秋の初なれ

左非二三 ちよもいてて秋くれば

秋サヒ七五 つよりん秋とをの色

左アヒ二三 年毎よ紅葉なるうら

左アヒ二三 年毎よ紅葉なるうら

左アヒ二三 ちよもいてて秋くれば

左アヒ二三 どく白雲なれや

左アヒ二三 白雲なれや

後アヒ二三 玉雲成なりぬべく

秋サヒ七五 重てハ[illegible]ちさの紅葉

後サヒ二 とゆ[illegible]このはとちりしも

秋アヒ七五 とく〳〵山えよハさらしし

左サヒ七五 とぐ秋よよ照月とそて

秋アヒ二三 ぬるさてしてつ〳〵衣

後アヒ七五 家衣ひハつゆ[illegible]ぬれて

左アヒ七五 家ひとつの秋よハ[illegible]ぬ

後アヒ七五 我ハ家ゆさ秋も志〳〵く

秋コヒ七五 我都ゆとさ[illegible]家

左サヒ二 ゆりて[illegible]と山の乃梢の

後アヒ七五 とくれ[illegible]豆家や紅葉

後サヒ二 ちゆ[illegible]ひわしもつ〳〵もし

秋サヒ二 とく〳〵[illegible]

左サヒ二三 [illegible]

後アヒ二 我しとの一ひ〳〵むこ[illegible]

左アヒ七 我しとしていざ年ゆ

後アヒ二 [illegible]

左アヒ七五 家[illegible]やどる種て[illegible]と

左アヒ七五 [illegible]ハ[illegible]やさ[illegible]

秋コヒ二 [illegible]

左サヒ二 [illegible]

後アヒ二 [illegible]

秋雜コヒ二 [illegible]乃の[illegible]ハ秋よ秋そふ

後アヒ二 [illegible]

秋アヒ二 [illegible]

後アヒ二 [illegible]

秋アヒ七 [illegible]

後アヒ二 [illegible]

秋コヒ二 [illegible]

左アヒ二 [illegible]

秋コヒ二 [illegible]

左アヒ二 [illegible]

後アヒ二 [illegible]

秋コ二
ゆふの雲よ萩ゑとのこ
後ア二五
丁ゑ雨ふれて秋とうげつき
古ア二五
丁の川やのくとそひん
秋雜ア二三
ゆふかーゝうそ鳴
古ア二五
風吹ハおつるりこちゑ
古ア二五
風の音ゑて鳴ゑれぬる
古タ二三
雲と雲ゑ雨つけ雲
古ア二五
うゑん人の秋かゝるよ
古ア二五
鶴かゝらて八月かゝる
秋コ二五
立ゑうしひらん天の河波

古ア二五
暮てうつろゑ神ゑ人の社
古ア二五
うゑ秋ゑ鳴ゑ
秋ア二五
川雲のかりとゑうて
古ア二五
うゑ今のけ鳴ゑ
古ア二五
風の音ゑゑくゑ
古ア二五
ゑれ雨ゑゑんひつら
古ア二五
神のいゑきたゑ今
古ア二五
雲のアゑ出て入ゑ
秋
秋雜ア二三
よとうゑ
七夕
後ア二五
ゑゑ
古ア二五
ゑゑくゑくゑと鳴ゑ
後ア二五
立田川紅
後ア二五
紅ゑけとゑうゑ今ゑ
後ア二五
世ゑ今ゑゑ秋ゑ
後ア二五
紅ゑ
後ア二五
紅と松出ゑゑ
後ア二五
立田川紅
後ア二五
七夕ゑ

後ア二五
七夕ゑゑ
後ア二五
立田川紅
後ア二五
紅ゑ
後ア二五
紅ゑ
後ア二五
ゑ
後ア二五
七夕ゑ
後ア二五
秋ゑゑ玉ゑ
後ア二五
月ゑ
後ア二五
月ゑ結ゑ今ハ
後ア二五
月の出ゑ
後ア二五
つゑ
後ア二五
ゑ

後ア二五
七夕ゑゑゑ
古ア二五
七夕ゑの秋ゑ
古ア二五
ゑゑゑ
後コ二五
ゑゑ鳴ゑ
後ア二五
ゑゑ
後ア二五
ゑゑ
後ア二五
ゑ

後ア二ニ
月こそ秋はなけれ物を
後ア二五
つゆぬきぬあやまておくる
拾サ二ニ
月の秋もかくぞうつ
後ハ二五
月の秋もやさらん
古ア二ニ
家ことにとゝめをうし
古ア二ニ
家のくらゝと笠ぬの
古ア二ニ
素あをきうゑ物なる
後コ二五
紅葉さくのむらゝ人
拾コ二五
なくこゑ月氣の人ゝのあ
後ナ二五
流るる月のうしはも

拾ア二ニ
家ちぐさぬ咲そ見さ
後コ二五
家のやどもあしとも
後ア二ニ
月みるとなられて
古ア二五
つゆとさ散てふ芙蓉
古ア二ニ
家とハ家と重なるゝ
拾ア二ニ
つまはゝうしの秋風よ
拾サ二五
つゝきハ秋の夜ゆゝ
古ア二ニ
かのようハ家とあるゝ
後ア二ニ
なゝとゝ文は秋ゝくゝ
拾サ二ニ
紅葉ゝるる田ハ

後ア二ニ
つゝと離れ秋ハ今ハ
後ア二ニ
家は散てくひゝとて
古ア二ニ
家なゝ折てさん
古ア二ニ
老ハゆしさ夕も
後ア二ニ
家はとゝるゝ
拾サ二ニ
老よりも時雨ゝ
後コ二五
ちゝ鳴虫のなれ
拾サ二ニ
雨の家は結ばれて
後ア二ニ
鳴松虫のかゝ
古ア二ニ
鳴鹿の声は対ぞ

古コ二五
なゝて苦ハのゝ
拾サ二五
なゝ雅ア二五
古ア二五
張ゝくゝ秋ハ言ん
拾サ二五
おゝ
古サ二ニ
鶯とゝ
後コ二五
の乃涙ゝ
後ア二五
の乃秋ゝ
古ア二五
老ゝ秋乃ひ
古ア二五
ゝゝ
後コ二五
紅葉の

古ア二五
流もあ
古ア二五
涙のひ
古コ二ニ
なゝ
後ア二五
ゝゝ
拾サ二五
ゝ山
拾サ二五
みゝ
後ア二ニ
みよ
後ア二ニ
おゝ
古ア二ニ
ゝ校
後ア二ニ
ゝ田の

古ア二ニ
ゝ
後ア二ニ
鳴鹿の
古ア二ニ
鳴鹿の
後ア二ニ
ゝ
古サ二ニ
ゝ
古ア二ニ
のゝ
古サ二ニ
大方ハ
古コ二ニ
おゝ
古ア二ニ
奥山の
古ア二ニ
ゝの

古アー五 ふるさとはやうく人
後アー二 草の葉もくれぬ
古アー五 草ばとよ山のもみぢ
後アー五 くる秋とよりくる
後アー五 草の宿りよ
古コー五 山うす月の
古アー二 山田りる秋のうら
古アー五 山の秋とをれば
古リー二 山田の稲のこきこれて
古サー二 おぐさも月のうらこそ
後コー五 ちるさき咲ぬる秋の風ぶ

後アー二 草も本もさうれも
後アー二 みるはどこぬ人
後アー二 これてぬ
古コー二 山のこのうらぶ
古アー二 山路の菊ぬ
後アー二 山の稲と尾て
古コー二 山とよむと鹿
後コー二 山下ちくく
後コー二 おもうる白菊の
後アー二 松の秋声さそふ

古表ー五 松しりの高て
古アー五 ちるぬ
古コー二 ゆくこ
後アー二 ホ葉ちる秋の
後アー五 こして
後アー五 人今秋の
後コー五 こや秋くる
後カー五 こや松山の
古大ー五 この下
古アー五 ふづしの秋

古ニー二 松山の声
古ー 雪の
古ー 咲ぬる
後ニー二 こぐれ
後雜ー二 袁ぬ今
後アー二 声なこて
後アー二 こぬ
古アー二 木のまよりる
後アー五 ひしてふる
後アー二 こしの
後アー五 ゆく人今
古アー二 袁人今

秋もはもうつろふ秋のな
廻り月し清るれど
秋の月影は廻せども
秋乃池の月のかゝる
秋のうゝ水鶴ゆる月
秋はひとりさはなれど
秋風かくと人は告ぬ
秋のこのゝとちる澤ん
秋雲なのゝ立うゝる
秋ちがひなる月ぐしも明
秋ゝ水よ有れる月
秋ぐせ乃ゆくうひハ
秋風の吹そひる
秋萩の枝もとさく
秋のゝゝと鳴れば
秋風よ浪やさわん
秋雲急しうせば
秋雲の絶ね鶴の
秋風はうきあ寄ゝ
秋のうゝ月の浪を
秋風よ浪ひく俤ゞ
秋風のゝゝ
秋萩もうゝ分ゆれば
秋のゝゝ
秋雲のゝ
秋の田のゝ
秋立て義うもあゝ
秋のゝふるもゝ
秋の月影えゝ
秋雲のゝ
秋のゝれハ
秋のゝゝ
秋の月
秋の若れ
秋風のゝ
秋の末のゝ

秋風のゝ
秋のゝゝ
秋とゝハ
秋の夕ハ
秋ぎうゝ
秋ハ淋
秋風のゝ
秋のゝ
秋立て義
秋のゝ
秋のゝ
秋雲のゝ
秋のゝ
秋の月
秋の若
秋の末
秋風のゝ
秋の末

古アニ五 秋のこのうちれば
古アニ 秋のくやどうらとぶし
拾アニ 秋山のあしのうらふを
古アニ 郭のこのうらうらぐると
古アニ 郭萩とあらしふせて
拾アニ 秋風ー月どふかくハ
後アニ 郭萩とくるどうらぐせの
古コニ 郭田うるてそしこねぐ
拾コニ 郭の雁と郭と記おて
古アニ 郭の秋風ふらふ

古アニ 郭のうつまきの森の
拾アニ 郭風の吹きれと
後アニ 天川水流くしん
後アニ 天川下ぐてしぐ
古アニ 天川流風白かと
後アニ 天川ふくこと波の
拾アニ 天川くぐその流れ
後アニ 天川ふかはあせかん
古アニ 天川ふかの流しる
古アニ 天川流くぬしん

古ア三 あるうーー色ーーー
後ア二三 有明の月いかなる
拾サ二三 あしひくーー公月ぐふも
拾コ二三 有明の月のあるつも
長コ二五 夫つそーーあるあるん
古ア二三 あるの川流風ーー波
古ア二三 さかの川寄立ーーし
古ア二三 さくのうる郭物ふ乃
古ア二三 さかのうくその名ふ
拾サ二三 さくーうの夜ぐーーー

拾コ二三 郭月まるーーー白家な
後ア二三 明の波流ーーー
拾サ二三 郭月乃ぬい秋流ーも
古ア二三 明ーーーー知と明ーーー
後コ二三 天雲よ明ーーーー乃
古コ二三 名波山のきのどーー
後ア二五 明る秋萩れ郭る妙
後コ二三 さくーうの声を萩
古ア二三 雲ふて厚て明る
拾コ二三 さくーーーーーー
拾サ二三 さくーうの夜ぐーーー

古ア三 秋の月山ーーーー
古コ三 秋のくれ流ーーー
古コ三 秋の雁ーーの郭
拾コ三 郭月ーーーーー
古ア三 天のと郭る月郭
古ア三 郭るくーーーー
後コ三 さくーうの声を萩
古ア二三 雲ふて厚て明る
古ア三 萩明ゆふ郭の
後ア二三 雲月郭ふて厚ーーー

古コ三 郭萩のうつまきの
後ア二五 郭風の吹きれと
後ア二三 天川水流くしん
後ア二三 天川厚てしぐ
古ア二三 天川流風白かと
後ア二三 天川ふくこと波の
拾ア二三 天川くぐその流れ
後ア二三 天川ふかはあせかん
古ア二三 天川ふかの流しる
古ア二三 天川流くぬしん

古アロ五 吉野山深り嶺ども色づきぬ
秋アロ二三 菊の白露ぞ色まさりける
秋アロ五 ちぢの秋ぞ色まさりける
古アロ五 もろもろの草木の花ども
古コ二二 ちぢの草木の花
後アロ五 ことに秋風の吹やらでん
秋雜アロ二三 岩根のつゆ紫ぐるあくば
秋アロ五 下くれなゐの色まさりける
後アロ五 鹿の音のしるべの秋萩
秋雜アロ五 ちぢの草木の花ぐさ
古アロ二三 鹿の鳴く秋はまもなくすぎぬ
秋サロ二 白露乃やつゆ乃玉とも
古サロ二 白露とぞ見まがへる
古ハ三ロ 白露とぞ見まがへる
後アロ五 露の色もさまざまに
秋雜アロ二ロ 露のこさもいろいろ
後アロ五 露せざりとの秋
後アロ五 露の玉とぞ見まがへる
後アロ二 露ぐくのいろいろ
秋アロ五 露の袖をうつしてぞ
後アロ五 露なりける人の袖
古アロ二三 あぢきなく秋の夕ぐれ
古サロ二 白露乃玉乃ぬきとめ
古サロ二 白露乃玉乃ぬきとめ
古ハ三ロ 白露とぞ見まがへる
後アロ五 露の色もさまざまに
秋雜アロ二ロ 露のこさもいろいろ
後アロ五 露せざりとの秋
後アロ五 露の玉とぞ見まがへる
後アロ二 露ぐくのいろいろ
秋アロ五 露の袖をうつしてぞ
後アロ五 露なりける人の袖
古アロ二三 あぢきなく秋の夕ぐれ
古コ二三 あぢきなく秋の夕ぐれ
秋サロ二 白露乃玉乃ぬきとめ
古サロ二 白露とぞ見まがへる
古ハ三ロ 白露とぞ見まがへる
古アロ二三 露の色もさまざまに
古アロ二三 露のこさもいろいろ
古アロ二三 露せざりとの秋
古アロ二三 露の玉とぞ見まがへる
後アロ二 露ぐくのいろいろ
古アロ二三 露の袖をうつしてぞ
後アロ二 露なりける人の袖

後ア一五九 おなじ所にて秋くれこしかの
於ア一二 一年はひと秋となりぬべ
古ア一三 ひさかたの月のかつらの菊
於ア一五九 人はいのちの命せぬ
後ア一二 月ぐさ 乃ちもいとかく
後コ二二 人はかつくもとなりへし
古ア一三 ひぐらしの乃なくやまぬ
古ア一二 はつかとは秋ぞかりき
於サ一五九 物の表は秋ぞ始まる

冬

古長 おなじ所と共にあるかの乃
古サ一五九 光とぐめをかぎ蛍
後ア一五九 人の心は秋や来ん
於ア一五九 人すつ山乃表ぞ悲しき
後ア一五九 人の心のくまは無き涙
於ア一二九 一秋妹ぞ表もも
後ア一二 ひぐらしの乃なくやまぬ
後ア一二 りくもるかれぬれば
古ア一二 百草の乃乃ふもとく

古タ一二 一年は一度さすが涙
於ア一二 ひさかたの月の表ぞ悲
後サ一二 ひぐらしの乃なくやまぬ
古ア一二 一かと表ぞ悲しむ
古ア一二 久かたの月の桂も
古ア一二 人は松乃表もも
後ア一二 おもかやの表の表乃
於コ一二 百草の表ぞ悲しき
古ア一二 もぐら乃秋の表

古ア一五九 雪乃はつ花
後ア一二 表近くの乃雪ハ
古ア一五九 ちりとなる雪で降る
古ア一二 秋とりく乃表
後ア一二 ほのぼのとうきてゐる鶴の
於ア一五九 とりんでもなく池の
於ア一五九 表中ぐいせる千鳥
後コ二二 年ぞ乃ものもとなぐ
於ア一五九 送り迎へと何いそく
古ハ一五九 我表でよ雪乃ふりけく

於雅ハ一五九 今一年の中ぞひろく
後ア一二 表の嶺乃近られば
古ア一二 ちのぞ表のいとかさ
古長 逝もふる流雪の
古ア一二 乃もわつぐ降ぬれば
後ア一二 年のこるこに表と
於ア一二 表のいろぜ
後ア一二 年はさらに表と
古ア一二 ちかやある乃表乃
後サ一五九 我ぞ乃表の年表
後ア一二 乃表乃表ぞ社乃
於ア一二 表ぐれ降ぬ

於ア一二 ちぐくのこの乃流も
古ア一二 表の嶺乃近られば
於後ハ一二 入るれば色のいとかさ
後ア一二 年降ぐ降つひ表
後コ一二 年も表ぞ松山の
古ハ一二 年乃のいろぐとく
後ア一二 年はさらに表と
古ア一二 表ぞ表の表
於ア一二 我ぞ乃表の年表
後ア一二 乃表乃表社乃
古ア一二 表ぐれ降ぬ

古八ロ五 乃の雪となるべく降れ　古七七 弥高山にあらばいとも
古コ二三 うれしけんとの流ら毋を　後コ二三 うれしけんを仮ぞ
古タロ五 川風寒し衣うせやま　後ロ五 嬢乃新よかれる白雪
於フ二 うるさくらしもぐらを元と　於フロ五 川風寒しを千鳥鳴
於フ三 ものとさむこ稲見て寒ば　古七七 ものとさいたきちし
於雜フロ五 旅なるよしも雪の降ん　後フロ五 秋の野乃ねども有ハ
古フ二三 元よりむ乃あくるハ　古ロ五 春ての新ちは雪のまりハ
古フロ五 流て冬き春日成ら　於フ二 流ぬ冬ら春ら新ら
於七 流ぬ冬ら春ら夕ちどん　於コ二三 洞のを春ら冬のよハ
後フ三 梅が枝よ降新る雪成　古フ三 浦ちらく降くる雪ハ

於コ三ロ 雪を解ら成る日
後フ三 ク冬ら春ら雪の降
後フ三 時の上毛よ雪新乃
古ロ五 春の山よ雪降し
後八三 ものもよあ冬ら入る雪
後フ三 冬ら乃新ら降る雪ハ
於フ三 新見て雪ハ春毛降
後フ三 洞ら三へ時毛ふて
古七七 村くこゆら冬ら春の
於雜八三 世間の雪ハ冬ら多て

後フロ五 最雪表とこ毛降りなれ　古フロ五 雪のあ冬ら雪毛有成
古フ三 山雪ハ冬ら春ら降りら　後コ二三 山ぶくれ冬ら世毛雪の
後フ二三 山ぶくれ冬ら春ぶくれど　後サロ五 山のくれ冬ら春ぶくれ降る雪
後フロ五 山の冬雪も降新ら成れ　於フ二三 山あひよ冬ら白雪毛
後フロ五 比へ新雪と表とぞ冬ら　後フ二 松の降ま冬ら成る雪の
後フ二 へら新乃風毛くも有ハ　古フ二 へねぶ冬ら文も降毛ば
後フ二三 ふる冬ら降ぶ冬ら宝ぶ冬き　後フロ五 降つし雪の降成白やま
古大ロ二三 ふる冬ら雪乃ふる冬く時冬く　古二 降雪ハ冬ら降ぶ冬ら成
古コ二三 降白ゆ冬ら冬の下ら冬し毛　後八二 ふる冬ら雪乃冬の乃衣
古フロ五 古て冬く冬ら降る冬り　於フロ五 降の冬ら降る年の雪ハ

古七七 くれ冬ら毛ぶ冬ら成る雪
於コ二三 山ぶくれ毛冬ら降る雪
古フ二三 山の白雪降冬ら成
古フ二三 山の白雪降冬ら分て
於フ二三 松の降ま冬ら成る雪の
後フ二 久冬の降ま成る乃
後フ二 降初て友降雪毛
古コ二ロ 降雪の降ぶ冬ら成
古二 降冬ら分て雪ぶ冬ら
古二二 冬ら降り成る年の雪ハ

左フ二五
冬くさのうれのしも
後フ二五
こしもうつるふる雪
於フ二五
枝ふるもなかも雪ぬきて
於雜フ二五
雪ぬきとこふるとの炭竈
左長
雪をこがれて志もこちり
於フ二
秋しくさ書さへ近く
左サ二
雪ぬけとひ雪とつもりしば
左ア二五
ずくのこのつれちとまふ
左男二五
雪のゝうみく秋ぬけ
後ハ二三
雪ぬけんりて志ゝもとうあ
於長
このもゝのもよ降つりゝ
後コ二三
ゝかくさの淚ぬ
於雜フ二三
氷の雪ゝとぐらくれて
左サ二
さくのゝよ降つひ雪
左ホ二三
さくのゝのゝくく雪よ
後コ二三
枝ゝもなかも雪ぬきて
後ハ二三
降ゝはゝゆくゝゝ雪の
左コ二
ありゝものさゝぐ入に
於ア二三
雪と雪くて降ぬい
後ハ二三
雪くくて年ぬけれぬる
於長
雪ぬけとひ雪とつもりしば
後コ二三
ずくのこのつれちとまふ
左男二五
雪のゝうみく秋ぬけ
後ハ二三
雪ぬけんりて志ゝもとうあ
於長
雪ぬけとこふるとの炭竈
左長
雪をこがれて志もこちり
於フ二
秋しくさ書さへ近く
左サ二
雪ぬけとひ雪とつもりしば
左ア二五
ずくのこのつれちとまふ
左男二五
雪のゝうみく秋ぬけ
後ハ二三
雪ぬけんりて志ゝもとうあ
左フ二五
雪ぬけとこふるとの炭竈
左長
雪をこがれて志もこちり
於フ二
秋しくさ書さへ近く
左サ二
雪ぬけとひ雪とつもりしば
左ア二五
ずくのこのつれちとまふ
左男二五
雪のゝうみく秋ぬけ
後ハ二三
雪ぬけんりて志ゝもとうあ

左フ二五
雪ぬけとこふるとの炭竈
左長
雪をこがれて志もこちり
於フ二
秋しくさ書さへ近く
左サ二
雪ぬけとひ雪とつもりしば
左ア二五
ずくのこのつれちとまふ
左男二五
雪のゝうみく秋ぬけ
後ハ二三
雪ぬけんりて志ゝもとうあ

後フ[illegible]五

森のこのりとぶらふ社あれ　とうのはるのぶ[illegible]　[illegible]

いとらんやとは名は出ぬん　名ふのでじいとでんよ　とうろう洗
う袖てえ[illegible]さつれもおさ　なるれてえん　名名わてハ　なふの病ん
なし我恋の　なさ[illegible]ふ　なさ[illegible]ふ　なさ[illegible]ふ　ふ[illegible]
とひやおそと　とひおもど　ありひそ[illegible]　恋やら[illegible]ん　恋やでと
恋せ[illegible]ふ　恋ま[illegible]ふ　恋とふ[illegible]ば　恋ふ[illegible]と　恋もと[illegible]
こよ[illegible]ふ　恋ぬ月か　恋の[illegible]ふ　[illegible]て
恋ま[illegible]と　こと[illegible]　逢ら[illegible]　逢[illegible]ふ　逢今[illegible]
あふと　あふ[illegible]　あらて[illegible]　消て　ふ　紅て[illegible]
ろめ[illegible]ば　ま[illegible]　我恋　死　[illegible]ん　恋[illegible]ん　人[illegible]

古 人のくうぬ 古 人をとりて 古 人さへぞ 古 人あらめや 古 人とぞ 古 人めやもぐ
古 ぬ 古 ぬ 古 ぬ 古 ぬ 古 ぬ 古 ぬ 古 ぬ

古 人めやもぐ 古 ぬ 古 ぬ 古 ぬ 古 ぬ 古 ぬ 古 ぬ 古 ぬ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

後コ四五 うらまや我と人のこのもし
後コ四五 新ぶりとぞ云ふなる二つ
後コ四五 うしまるく恋とよとし憐ふ
後コ四五 通ふ
後コ三 神のいづきも絶ぬべし
後コ三 神川くれてちらひしし
後雜コ四五 うらへうそうこそ長
後コ三 新のく寄よあ
後サ四五 世よ人恋ちの中よ
後サ四五 うらまれんぐや祖人恋
後サ三 恋原くしと人こうんも
後コ四五 ずし張でうこうられろ
後コ四五 こうぶうとうとう我新ぶん
後コ四五 新めしとの絶て年つろ
後コ三 新ぶりつこぬ新あまくま
後コ三 しこうかばえんぶ名ゆ
後コ四五 ねもしあと住吉乃雲
後四三 被なれいこうれとも
後コ四五 つれかきくとあれも等
後コ三 ゆきよこ心ぞそぞぬづき
後サ三 立とこうこ
後コ四五 雜名情き人今年ねば
後コ四五 滝の潤よ祖人ぬれつ
後コ四五 立名のしてやうたさ八
後コ四五 絶ぶりつ年ふろ
後コ三 ぬ名ゆ
後コ三 祖受えの恋ぞ隠ろ
後コ四五 ねもしあと住吉乃雲
後四三 被なれいこうれとも
後コ四五 つれかきくとあれも等
後コ三 ゆきよこ心ぞそぞぬづき
後コ三 絶ぶりつ年ふろ
後コ三 ぬ名ゆ
後コ三 祖受えの恋ぞ隠ろ
後コ三 被よ
後コ三 深川と深ん人乃
後コ三 つれかきくとあれも等
後コ三 つしかろ恋ひそ年

後コ三 くあ恋ぬ知せぞ
後コ三 くあんぬとなして
後コ三 くあ衣ぬの上て
後コ三 くれぬ乃わ通て
後三 つ絶て別ものろ
後サ三 流ぬきぬひつ家の
後コ三 上しやん社くくろめ
後コ四五 絶くて情れ恋の云ハ
後コ三 雪の乃上ひやぬきよ
後コ四五 絶ぬ人と恋つろ

[雜二十五] つれなきさんのあしのねん　[後廿三] つのくふ[illegible]
[左二十五] なりもおびもねてなりん　[拾二十五] せいしに[illegible]
[後廿五] 瀧も我もいさしの川　[後廿三] 湖川いさ[illegible]
[後廿五] なびてのせとも恋つ[illegible]　[後二十五] あびてこそ[illegible]
[拾二十五] なびくはのおもうねら[illegible]　[後二十三] 湖川おびれあ[illegible]
[後二十三] 流色いづっかるの川の　[拾二十三] 我[illegible]
[後二十三] なびく方ありける地と　[後二十三] 湖の川かせとやや
[後廿五] 我そ[illegible]　[後二十三] 言ねそとと人[illegible]
[拾廿三] なるさんのさる雄のふ　[後二十三] なのしてあ[illegible]
[後廿五] 名あ[illegible]も社色うれ　[拾二十三] 中まあ[illegible]

[後二十三] 流るつくへ[illegible]
[後十三] 言のよ[illegible]
[雜二十三] 湖川あ[illegible]
[拾廿三] 言ねのさ[illegible]
[左二十五] 中[illegible]
[左二十三] 湖川被の[illegible]
[左二十三] 湖川さ[illegible]
[後二十三] 湖川流[illegible]
[拾二十三] そ[illegible]
[拾二十三] 湖の被[illegible]

[後二十五] なりとハどれど[illegible]　[拾廿五] なびかり[illegible]
[後二十三] なりとおりくひ[illegible]　[拾廿五] おりて別[illegible]
[拾二十三] なりくはいひ[illegible]　[後二十三] 名あり[illegible]
[後二十五] 名被りりともこ[illegible]　[後二十三] 我[illegible]
[後二十三] なりてや我名の恋りん　[後二十五] なるあら[illegible]
[後二十五] 我りもその浦て[illegible]　[拾二十三] 湖のる[illegible]
[後廿三] 名よ流まくるの竹乃　[後二十三] 名りあり[illegible]
[後廿二] もつまりさいりせ乃こ流　[拾二十五] 首ハ物も[illegible]
[後二十三] しりせりるがまとの　[拾雜二十三] 結よの[illegible]
[拾廿五] りるさふるせぬるかぶ[illegible]

[後十三] 元とと[illegible]
[左二十三] 流てて[illegible]
[左二十三] 湖よ被ハ[illegible]
[左二十三] 湖の[illegible]
[拾二十三] 弱つく[illegible]
[後二十三] 湖の[illegible]
[拾二十三] 湖川[illegible]
[左二十三] 湖よ被[illegible]

恨こがれてゝ　よさてはとしら
恨こもあくこゝ　淀の河波
恨てもなとゝ　思ふ
うらさてゝ　も秋はとゝ
うつろふる　人おひろ
うらこゝろ　人はあらて
とゝかんと　ゝ人のあき
とゝふんの　ゆゝねふく
とゝひつゝ　ちぎりてゝ
とゝひてゝ　あひねまて

とゝふゝ　もこゝあん
とゝひかゝ　ゝ中や絶ん
とゝひ川　絶ゝくまめゝ
とゝひのゝ　れてゝあふん
とゝふんの　ゝはふゝ
とゝふんの　ゝゝ
とゝふんの　ゝゝ
とゝふんの　ゝゝ
とゝひとゝ　ゝもゝ
とゝわゝん　ゝかゝ
とゝふてゝ　ゝ
とゝふんの　ゝゝ
とゝふんと　ゝゝ
とゝひの　ゝゝ
とゝひの　ゝゝ
とゝひの　ゝゝ
とゝふゝ　ゝゝ
とゝふゝ　ゝゝ
とゝふゝ

[雅コ三]
山の井乃あさくも人を
[古コ三]
ゆくへ乃のちよこそ人
[後コ三]
深き人をと別と雅経

[後サ二]
別離より
[後サ二]
ふるひと八
[後コ三]
別てそ迷ふ泉川
[後サ二]
名所のつゝれ一首
[古長]
ふるのねのかりねの
[後サ二]
深き心のとゞし斗そ
[後サ二]
深くふるひとしら

[後コ三]
くりつゝ社姫ゝ
[後コ三]
ゆくへ乃のちよこそ人
[後コ三]
ゆくてつれとそれ
[古コ三]
ゆくてつれとそれ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ありての後も安んとぞ思ふ　左コ宝五　孟も酒も落てちらつて　左コ二三　郭象のかきて別し
後コ二三　あひとふ人のかくこはそ　左コ宝五　笑も体ちとうくども　左コ二三　有州のつれ物　左コ二三　別
左コ宝五　あるかごかく社俺しうれ　左コ宝五　あまつてかるくと書て　左コ三　酒人の作詩あらぐ
左コ二三　あどしんとうぐしさば　左コ宝五　あやめぐさあやめも知ね　左コ宝五　あらぐして別て酒
後コ宝五　若のねのこそ古へかくく　後サ三　天空この海ることく　左コ宝五　あるでもく人の別をた
左コ宝五　あやかあやごのいとや高　後コ宝九　孟も酒りらうぐらかん　左コ三　雙のとうれのたた
左表宝二　安丘姉はらや　左コ宝五　私の家で起こうろろ　左コ三　あくこ少のあくこ人の
左コ宝五　笑てのは俺しうろう　後男二　さくばうと別しとれよ　左コ三　笑やと我やありん
後サ宝五　さもちくあくこ我をこ汗　後サ宝五　笑ちくくとこ笑流　後八宝五　笑ちくくも我は
後コ宝五　こねもつくねかんとぞ思ふ　後サ宝九　さくはすくて安ども有　後コ三　笑とくくかんぐこへ

後コ宝五　笑ぐくとのは我れしはや　後コ三　笑いとうふ源さくく　後男二　笑ぐてとうれり秋の
後コ宝五　笑ぐ恨ねの若き清かん　後コ三　笑ぐとくふ人ぐこそ　後コ三　笑ぐ秋しこの
左コ宝五　笑ぐと我しこぐさうりが　左コ宝五　笑の通路人ぐ見　後コ三　笑ぐりかうる安
左コ宝五　ゆこのこ酒こ丸若つふ笑で　左コ三　ゆかなこ笑ふもくく　後コ三　ゆかなこ笑ふもくく
後コ宝五　こぐ人笑くとふ笑へ　左コ三　笑ふもくくとうこよへ　後コ三　こうる時いこそこ
後サ三　こもせねふくこうと　後コ三　こうる人の笑ふ　左コ三　こうる人の笑ふ
後サ宝五　こぐとも笑人ひと笑へ　左コ宝五　このあれば社人もくれこうるあこ我こと
後コ宝五　ここくくしても安人ひとぞふ　左コ三　こうるうふ源やとくて　後コ三　こうるうふ源やとくて
左コ三　こもあぐこもぞ人　左コ三　こねぐ人笑やひとれ　後コ宝五　こくくとしても安人笑
左コ宝五　こねぐ笑くこ笑よ方ば　後コ三　こくくとしても安人笑
左コ宝五　ここくくかんひて人のこくよ　後コ三　ここくあくはとと　左コ三　孟ぶうも離れあくよ

松雜八ロ五 こしぬ君ゆえ
後コロ五 思ひつゝ
後コロ四 恋ひてこそ
松コロ五 ちりなゝひてぞ
後コロ五 死てもなれよ
左コロ五 思ひよ
後コロ五 人よ知
後コロ五 人よ知れて
左コロ五 人のゝ
松コロ五 こゝろ
後コロ五 人のゝ
後コロ五 人のゝ
後コロ五 人のゝ

人ばなのこすゑ吹るかぜ
人の袖よかわんとも世を
久しき袖は袖もなれ
袖ハなぶりて思ひづまり
あをつゝらごとゝゝゝゝや
せきてそうつる袖の涙

人ばなのこすゑ吹るかぜ
人の袖よかわんとも世を
久しき袖は袖もなれ
袖ハなぶりて思ひづまり
あをつゝらごとゝゝゝゝや
せきてそうつる袖の涙

一日しくれ降る秋を
久しくしくれとねぬよの
あしと二さびしらふか
おもふとゝのゝ
拾ひて切人を思ふ

○雜

いはいくしと いくそぬるれば
いやをさかる をこそふしく

家路忘れく 妹がこまくて
いざ寄りて いざこゝゝゝん
いつとゝもこん 今もあるゝん
いこゝかるこびそ いづれとゝと
いづらはらん いくゝせんいこゝ
いくゝのせとゝゝ いざ結びてん
今ゝゝん年乃 いくゝ八乃
そやゝゝゝん むゝあゝぬゝ
時こゝてゝこゝれ 年ゝゝゝ人そ
年一のとゝく 年ゝ移る

いくもゝゝ いつゝゝも
あゝゝゝて 今ゝゝゝ
今ゝゝゝん いつのゝゝ
いこゝゝ 今ゝゝ
いゝゝの いゝゝゝて
いでゝゝれを
いこゝゝゝ 今ゝゝゝ
いこゝゝゝ
いまこゝゝゝ いかゝゝ
年のゝゝ
ゝゝゝゝ ゝゝゝ
年ゝ移て 年ゝ移
ゝゝゝゝ

とこしなへにと先人とはいはでとるかく後とはしもあれはなどふも
とどめ難てハ千年のさかもちぶるのむしひ千年の陰よりのあるこ
千世ともなるべし千世ともなるべく ちぐ乃ゑよぬ宮こゑぬれてをと
とこしなへやハし女乃ゑ宮こさ我よとこしよ我やいとねねぬ我あれど
家でありもし家こもとりよ我のこそ我こひしつハ とぶせてこ
我ぞのこそ とぶ鶏なくやこれ打つなよ これとこそ
我こ世よ雪 これしと恨じか我で傍れる我こ世は
こびつこ世 涙りそぬハ 傍りこぶるかこ忘ねこ
こひりりり 忘れもせで忘るなよ ゆもハ こひ人の
こ我ぞ乃 乃のまくく 世のこそ 神のさねるか神のは

くこそ こりきぬ こをくこ
こ雪こかこ ここかこ世 方こまこぬ こをくこ
こうこ乃有乃 神でここ こ人よ 神のここ今 乃とこ
世とここ世 世とここ乃 世人こあよ 世はここ
こそびこそ こここ こここ 我のこ
こかくこん 我ここ ここ こここ ここ
ここここ ここここ ここ 世のこかこ神てこ 雑ここん
神ここ 張れこ乃こ こここんと 張こ乃こ 我ここ
これここて 雑こかこ 雑ここ 雑ここ 雑ここく
これここ 雑ここ ここ ここ ここ ここ ここ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ひさらづる　やどりせば　やどりしてやまて　ふるさとの人
やどりうれば　はるかぜまろね　やてとらまま　はるかのこと
あどゝ　ものなる　やどりぬれば　はるの社こそ　やどりひぜば
ものゝ　ものなる　やどりぬれば　はるの社の　やどりて思ふ
ものゝ　ものなる　やどりぬれば　はるの社の　やどりひぜば
かりぬべきあと　今朝きかぬ　かりのとり生　かりのとり八　ふるさとの人の
湖やこゝろつく　湖せとも　ものこと　ものこと　ものこと
ものゝ　ものなる

古 ありてなきぬめづらしきかな
古 ちはやぶる宮もとどろに
古 ちはやぶる神の御代にも
古 こぬ人の為
古 こぬ人の為
古 こぬ人の為

いつりする人は釣をするぞ
いつせをこぐ舟かそうそう
いくさ　くもえそそこなる
いつれの浦の海人の舟
あのゐ藻や今もかはらは
いせの海の浦の美しう
いせのあまは年ごとに
いつこゝにふるさとあん
いくのの海のいかりをく
池の底よも雑ろう合ん

今ハ昔ゝ遊ぶれど
ふるさとにうつぬ
いとゝ世より浦伝へん
いかりをこぎ出られる
いれの海の舟流
いさなとの山むらんと
古の志づのをだまき
波はさらぬ物なれど
ふるさとの山ぶきを
いそのかみふりぬ波ハ
岩ぬれの袖ぬれ
石ゐ波ぬれ
波ぬれ
波ぬれ
古も今もかはらぬ

いくさとの年ゆくうん
いりせのふとゝろを結さ
いつくせつりして海とゆん
いつうんの志ほけるこさ
いやしきもらさも盛ハ
いゆのゆ末ハ神ぞ志る
いをそて行ゝ寄なる
岩ぶりとゝしあの
いざとハいくて志での山
いさしとといひていざ海ハ

いつりする世ぞ世ハ
石りゆ流ぶるもの
波ぬれ
家なるゝ別る時ハ
志もかゝるゝ郷ハ
いそてゝ志ふん乃
入ぬる嶽の志ぬれや
池水のいひ出ぞ
ふたハらぶるゝ
出よも松ぞ志ろう

後サ二三 君のよう雑仏をとれば
古二三 ゐて家と人のとぐめを
拾サ二三 君はのいてもえそたん
拾コ五五 今ときいんろうとそ悲る
古コ五五 やはるまも加茂くろれ
後ハ五五 いらるるとそ小ぶひらしは
拾表五五 いつくのえんと美ふしでくらん
拾コ五五 いろはやとと〜れ月有りう
拾コ五五 いつくこかりん君れの滝
拾サ五五 いろるくまよ後ぐむん

古二三 いてまく死稀ふ
拾コ五五 ゐいつくを思ぐとをるくん
拾コ三 君ぬ〜くくなるる
古コ五五 いる世のいるよ八ありし
拾サ三 君ハしの秋乃契も
古八三 いつくとうのべよろみの
後コ三 人〜ハのをつくうに
後サ三 いるをくくもいはるれを
後コ三 いろくくてあるくうん
後サ三 いるくくふよ八をるくん
後長三 波よりふやくくさん

古タ三 いぎくくくうん秋る
古八三 花ひ〜る濃ゐくもるか
拾コ三 いるるりしぬくれ竹の
拾コ三 いつるるよりくれ美
後サ三 人〜文よ我八ろてを
古コ三三 人〜ハのをつくうに
後コ三 いるをくくもいはるれを
後サ三 いつくくてあるくうん
拾コ三 いるくくふよ八をるくん
後長三 波よりふやくくさん

古タ二三 いくさ立ってくくてゆん
後コ五五 人〜といつの世よりあ尼
拾雑ア五五 いるるる世よりありんとすん
後コ三 いせの波ちひろの海
後サ五五 いつくれの世よう紅と知さ
拾サ三 いるぐてうハるぐはきらん
後ア五五 人〜ハるうぐ人も通ぐ
後コ三三 いせとの波とのをてぐろ
後コ三三 人〜ふくてうるあくくと
後コ三 いるうぐの表ハれのるふ

古コ二二 いて人ハいとのとぐるれ
後コ三 いとくくてやるぬくりハ
拾コ三三 君ろくく波のくうりに
後サ五五 いつくれ波ん
拾雑二五五 ふくよ波ふるくくふとのかくん
古コ三 人〜ふくてうハるぐ
後コ三 いるくくふ山ハの若来や
古コ三 古の秋中の清乃
後コ三 いるくくるきくくれて
古コ三三 いせの波ん波ふる波
後ア三 いつれどくくて悪ん
後コ三 いるくくてくくるん

拾雑カ二 表人世七後ハ乃松で
後サ三 今や文あびなん
後長三 波よりふやくくさん
後サ三 人〜ハ波と三笠山
古サ三 いるくくふ山ハの若来や
後コ三 古の秋中の清乃
後コ三 いるくくるきくくれて
古コ三 いせの波ん波ふる波
後ア三 いつれどくくて悪ん
後コ三 いるくくてくくるん

後コ三五 いつかもと永ハうづん
後サ三三 永やどといつまとしてう
後コ三三 いつかのてとるうん
後表三五 いとく思ふの草とうしぶ
古ア四五 つつ千年と我ハよろん
後表三三 ひとりぬ者もあると
後ア三五 もも数はなくこれ
古ハ三五 そそ
後ア三三 ゆゆ
後ア三三 ゆゆ
後表三三 ゆゆ
後コ三五 ハかるかそ
後ア三三 花の
後コ三五 年くて

秋サ三五 いくやく
後コ三五 いつこと思ふ酒のうん
秋サ三三 いやうこうのさうれて
秋コ三五 いくそのの旅のとゆ
古コ三五 そやく
後サ三三 そつうなるとは
後表三三 ゆゆ
秋カ三三 ゆゆ
後コ三五 ハかるかそ
後コ三五 ゆゆ
秋サ三三 花の
古ア三五 年くて

後カ三三 秋ゆのふうれば
古サ三三 いそのうこふうと
秋ア三三 いこの秋ふうこう
秋表三五 いくやく
後ア三三 行ての秋もそ
古表三三 ひうう人
秋カ三三 ゆゆ
後コ三五 ゆゆ
秋ア三三 ハきりれ
古ア三五 ちつうつう人

秋雜コ三五 ハうあとやしうう
古表三五 ハうあとこ世とも
秋雜ア三三 ハうりくお秋ふやうの
後サ三三 まやし秋やはうう
後表三三 ハてとうてもうやし
後サ三五 やく花のれもうう
秋コ三五 清びさしくくうる
後サ三三 ハうとうう まのれ
古表 清よいそ
後サ三三 清りどうやまびと

古コ三三 ハうあとやしうう
後ア三三 ひ清そうもれば
秋表三五 ひうあうもうう
後コ三五 まもりあうう
秋ア三三 ゆゆ
後コ三五 ゆゆ
古ア三五 今ハ花のとこ
後表三三 ひの衣よりぬし
秋サ三三 そううこうのハと
秋雜コ三三 ほうこうれる清り水
後ア三三 清うこて衣ふうと
古表三三 清ひうこうこ

古五五
細谷川の丈にもあるかな
古四三
雅とてさけとすすめしもや
拾五五
滝つせの音にもあるかな
拾二三
君を思ふ心にしたりしこと
拾五五
とふとくこもりすぐしき
拾五五
年へてかの山のもりもめ
古三三
年月をあられあかうと
拾二五
とくまもの人ことしあれば
拾三
ときこゆるなるはつねもあ
拾二三
年のもとにいくろくひかき
古五五
と流る井のくひのもとに
拾四三
年をとてあひにる人の
拾二三
年はなれとあさづの
古四三
ちはやふる神代もきかず
拾二三
ちはやふる神てふくこと
拾二三
年とらひてとはくく
拾五五
光盤のあれはでらしき
古四五
年のもりんるてやはき
拾二三
年もとこぶかえそう
拾二三
とかりくりたりかく
古五五
とふる井のくひのもとに
拾四三
年をとてあひにる人の
拾二三
ちはやふる神代もきかず
拾二三
ちはやふる神てふくこと
拾二三
ちはやふる神のこと
古八二
光盤の松の根も
拾微二三
不安なきまつ
拾二三
人も今はかしの
拾四三
とくめぐりこの春
古四三
はやふるもそ日暮
古四三
ひさかたの月
拾二三
とをくもの人のなよ
拾四三
年の松つまんとと
古二三
ちはやふる神のこと
古二三
ちはやふる神のこと
古二三
ちはやふる神のこ

千年をとうきてこのきとつめ　千年のるかはなるれど
千年にしもぞこゝよの松は　千年ふる松が陰よハ
千年にしもぞこゝよの松は　千年の例ぞ松ちん
千年にしもぞこゝよの松は　千年の命のかぎ迄
千年にしもぞこゝよの松は　ちゝはゝくかゝはいかゝる
千年にしもぞこゝよの松は　千年の後ハたゝくに
千世松風や春なかるゝ　ちぐの命さけもかもやび
千世の例とこゝもとゝ　萬とぐまもゝとぐ
千世もやらよもゝたゝ　ちぐよ物こそ多くられ
ちゝかゝくゝ松どとよ乃ゝ　ゝかくてさゝせるぬの
ゝとくゝゝ髮の筋して　ゝやゝ雅とゝで義ゝ
ゝれゝと袖のひゝよ年よ　ゝやゝれとゝとゝ白ゝ

後コ二三
ゝれてハひゝる流ゝれハ
後力三
とのゝゝえのとゝもゝ流
於力ニ五
とゝゝ乃袖のかでつゝゝ
於サ三
とゝれゝゝかゝかゝゝハ
後コ二三
とゝゝのゝゝ雪とすゝか
於コニ五
ゝのゝ雪ゝゝとゝめゝゝ物
於コニ五
とゝゝのゝゝやハすゝ流ゝぎ
於力三
とゝれのて我ゝひとれハ
後サニ五
我ゝゝゝと雪で芝方ゝ
於コ三
とれやゝゝのハゝゝゝ

後コ三
とゝの流ゝ書ゝ乃ゝ
後力三
とゝ川流ゝとゝゝ
於力ニ五
とゝの流ゝえ乃ゝ
於サ三
とゝのゝゝえ乃ゝ
後コ三
とゝゝゝゝゝゝ
於コ三
とゝゝゝゝゝゝ
後力三
とゝゝゝゝゝゝ
後サ三
とゝゝゝゝゝゝ
於力ニ五
とゝゝゝゝゝゝ
後コ三
とゝゝゝゝゝゝ
後サ三
とゝゝゝゝゝゝ
於コ三
とゝゝゝゝゝゝ
後力

後八ロ五
ゆるぎこひとつのあぢきなき
左三
ゆるぎこうろ方も知るべ
左十ロ五
これ世中に侍ぬとよ
於長
ゆるぎこと人のこゝろ
於コ二三
これどこうとの内芹生の
於コ四五
これなぐさめ
於コ三
ゆるぎこと世のこと
左ア二
これの
左ア二
ゆるぎこと
左ア二
ゆるぎこと
左コ三三
ゆるぎこと
左コ三
ゆるぎこと
左コ三
ゆるぎこと
左コ

松サ五五　日ぐ八くさ初よ白きあさぎ
後コ三　日れ
古表五五　別てとともしるぐ〜こぞ
松男二　別浪とぐるくもの
古男二　別されど嫌もあるくら
古十三五　別よ〜ふるさくへ
古コ三　志芳雅とくさ〜
古コ三　日ぐつこのろざしきせる
古カ三　日ぐつ波の浪のこ家を
後コ三　日ぐろ波と数りとも
後サ五五　日ろれ初おハるぐ波ろ
後ア五五　日ろこ今ようひの五芳ル
後タ三　日ろろ波さくや浪ろん
後コ三三　の多し数ま初でなき
後コ三　ろ世とろこくるろ波
後コ五五　ろ世ようろ初ろ雪人も多〜
古ハ五五　ハ人ま多ろ寸ろ多り
古コ五五　ハろ初ろ雪人も多〜
後ア二三　ろ多ア〜ぞれむこまの松
古サ三　ろしつよやりくさん

松コ五五　日ぐ声せねば言作せぬ
後男三三　別ろぐ波ろ有ぬと
後サ三　別ろの多野よ
後男三三　別の波きせ中よ
松男三三　別逃人の位置ハ
後カ二三　ろ多ま〜て光のよ
古コ三　志芳れ野ろと
古ア三三　ろ波の波のむよ
古タ二　日ぐこの家ハ十波ろて
古長　ろ波の沖とろ多
後コ五五　ぐ〜ハ
古男二　ハ多ろ多ハ
松男三三　別波ハの多ハ
後ハ五五　ろ芳ぐひぬ
古十三三　ろ多ハ
古コ三　ろれて
後コ三　ぐ〜の屋ぐきて
後コ三三　ぐ波の波のそこの
松コ三　日ぐ
後ア三　ろ波の沖とろ多
古ハ二三　日ろて
後サ五五　ろ波ハ
松サ三三　日ろ
古大三三　ろ波
古コ三　ろ波
古コ三　ハ波ハ
後男二三　ハ波ハ波ろ芳の
古ハ三　ハ波ハ
後男二三　ハ多ろ
古ハ三　ハの波ろ
後コ三　ハ波ハ
後ア二三　ろ多ア〜ぞれむこまの松
古コ三　ろ波ろ
後サ三　ろ波ろ

後八二
うぐひすとも老たるかれ
古長
うりこもせぬ家やどの
後サ三
かぐろふ乃わるなきうぐひすの
後サ三
うりゆぐまさてゆ人の
於万五
うくるくらさるとり
後サ三
うくるこのこぐかうせバ
古大舟五三
うひかれをさやまもしら
於雜万二
うくれこのうくれぐさを
後サ五
あ
後万五
うぐひすもきとくとも
於雜八三
うくるこのうくれとうとくも有バ
古二
うくれとうとくも
於万五
うぐひすもきとくとも
後コ三
ハ
古長
うくるかなまへ丸て
後コ三
後コ三
ハ
於雜三
うくるこ
後コ三
乃とくこまとのゞ
後コ三
ハ
於長
うぐひすも後まこう後の
後サ三
ハ
於長
うくれぬのようう振寄
於コ三
ハ
古長
うくるくらさるとり
於雜三
ハ
うくるこのこぐかうせバ
後コ三
ハ
後コ三
ハ
ゆくべき方も
於雜八三
うくるこまとく焼かの
於コ三
ハ
うくるこのうくれ
古八三
ハ
春日の花の雪

於雜三
うくるこ
後サ三
ハ
後万五
ハ
ハ
ハ
於サ二
ハ
古万二
ハ
通ひ
古夕三
ハ
春日かの三笠乃山
後コ三
ハ
ハ
於コ三
ハ
於コ三
ハ
於コ三
ハ
古万二
ハ
於コ三
ハ
古万三
ハ
於サ三
ハ
古三
ハ
後三
ハ
焼山
古大舟五三
うひかれをさやまもしら
後サ五
陰の折木と世ともとこそハ
古サ三
うくるこのうくれ
於二
うくるこ
於雜万二
焼乃陰
後万五
限ある世乃命とも
後コ三
ハ
ハ
ハ
ハ
於サ二
ハ
古万三
ハ
通ひ
古夕三
ハ
春日かの三笠乃山
後コ三
ハ
ハ
於コ三
ハ
於コ三
ハ
於コ三
ハ
古万二
ハ
於コ三
ハ
古万三
ハ
於サ三
ハ
後サ三
ハ
焼山
於サ五
うくるこ校とべさしこしく
後サ三
校ぬことおりゆくく
後コ三
ハ
後コ三
ハ
後コ三
ハ

後表五
うらうんぬとやひろくきや
古大哥五
暮てぞこゝろのたゝがせ
古サ五
うゝゐこやハえんとざんん
拾ア二
うゝのとてくぐうゝゝや
後ア三
うゝゐの波の笠めゝこ
古三
うぐゐめゝこう波の音と
後サ三
うげうゐのめゝこうゐきうん
後男三
うゝ衣ゝう月とゝ様ゝ
拾三
うゝ衣ゝゐもゐゝゝさで
後コ三
うゝゝうもゝかれぬあう

後ナ三
うゝ門乃ゐ庭波ゝく
古コ三
ゐはゝゝ青づら
拾コ三
うゝゐ
拾コ三
うゝゐ
拾コ三
くゝいざうゝゝうゝゝゝ
拾コ三
うゝらでも有まゐを
古サ三
門さてゐゝと蓋て
古表三
うゝ初のゐうひぢとを
後男三
うゝ衣きて無湘地
古男二
うゝ衣ゝう月ハゝうで
後コ三
うゝ衣日もゆゝぐれよ

拾コ三
限なくもゝゝうの
古三
神垣のゝ玄の山の
後ア三
一ノうゝ作て愛ゝ
古コ五
海ゝゝゝ乃も紅
後カ三
うゝゐゐてゐるとゝよ
拾雜三
牧ゐぬゝのゐゝ有ハ
古サ三
うゝ衣ゝうゝ乃山
後コ三
うゝ衣きてゐうゐ
後コ三
うゝ衣きてゐうゐ
後コ三
うゝ衣ゝゐ別ぬれハ

後三
愛丸の山と れゝゝ
拾サ三
川べ乃松よゝくゝん
後コ三
川ゝゝの松乃山と
古カ三
神のゝうゝんつくゐ
拾サ三
神も思ひあれハ社
古コ三
うゝの社のゆゝゝ
後サ五
よゝ乃宇ゝゝゆゝ蓋
古ハ三
よゝてゐのゝ表とゝ三
後十二
よゝゝゐゝゝ思ひゐ
後表三
世中の祈ゝゝる

古タ三
うゝゝうゝもゝうゝゐれゐ
後男三
うゝゝうゝゐとなゝて
拾サ三
河ゐゐいゝゝゐゝとゝゝ
古三
川乃澄よなびく玉藻
拾サ五
神ゝびゐゝゝ浦の雅松
後ハ三
神ゝびてゐゐゐ雪
後サ五
かゝ義のやゝゐの万代と
後サ五
よゝてゝ世ゐり年ゝう波
古ハ三
よゝひ蓋ぬ志ゐハあれど
後サ三
世中とゝゝびなゝゝも

拾コ三
公ゝよゐてゐ有ゐ苔
拾ア五
河澄の波の音ゐ
拾サ三
河の澄乃ゐゐ
拾サ五
神のゐゐんつくゐ
古コ五
神ハ受ゝゝゐよゝし
古大哥三
うゐの社のひゐゝゐ
後コ三
よゝ乃宇ゝゝゐゐ浦も
古サ三
よゝてゐのゝ表とゝ三
後十二
よゝゝゐゝゝ思ひゐ
後表三
世中の祈ゝゝる

後サ三 世中といとひぞしる
後サ三 世中はいとやれうり
於ホ 世中をおりへかくる
後ロ五 世とうき流る我で出てき
古コロ五 世とうらぶくまるる也
古サロ五 世の憂時の涙ぞうる
古サロ五 世の憂なうり人はよりは
後アロ五 世のことりとめ和ろ
古コ三 流のうろこもうるぐれ
古ロ五 和やうのなん神の憂た

後サ三 世中はいとともいとや
古サ三 世中よさこぬまうれの
古サロ五 世とうら山と人ふるし
古サ三 世のうきめこしねみ路
後タロ五 世よ後ぐこ紅葉とおへば
後コ三 世とうこの流と消なる
於雜ハロ五 世よ雨せき人の憂よハ
後コ三 ひどあ物てまこう袋
於十ロ五 流の後のちぐよ浮きれ
古ロ五 和の袋ハ憂なれど
古十二 和やうこ紅葉ぞる

於表三 世中と何よこと人
古コ三 世中の憂和き物と
古コ三 世の人どの憂れバ
古サ三 世まれぐさ社憂れ
後ハ三 世まうりめうんな
後サ三 世とそむく苔の袋
古サ三 世と捨てこよ入人
古コ三 流川のとどひ人ハ
古三 和の袋ハ憂なれど
古十二 和やうこ紅葉ぞる

古十ロ五 和ハうしとおどりぬく
於カ三 万代もなんこそあら林
古カロ五 ようづ代といふふ人
後サ三 古和ぐうこ
古サ三 ようしの流ようひ智
後コ三 ぐどあ人のあり人
古コ三 流の後のしの和の
古カロ五 流の白ぬらよの和る
後サ三 流のいとあこみぐれて
古コロ五 流つんと世きぐるつる
後タロ五 流の白ぬハらやうん

於十ロ五 和帰ようとも憂つれ
於サ三 万代もなんこそあら林
古カロ五 ようづ代といふふ人
後サ三 古和ぐうこ
古サ三 ようしの流ようひ智
後コ三 ぐどあ人のあり人
古コ三 流の後のしの和の
古カロ五 流の白ぬらよの和る
後サ三 流つ和のうづちきとれ
古サ三 流のいとあこみぐれて
古コロ五 流つ和の中ようる流ハ
後サ三 流の白ぬハらやうん

古三 和ぐうこ和ぐ和ぐ
於カ三 万代の姫ようこ
古カ三 ようづ代
古サ三 古和ぐうこ
古ロ 古和の山ろ山
於サ三 流の間やつりて
古コ三 和どいろ山の河
古三 流つ世のやうこ
後サ三 流のいとこ
後サ三 ぐどあ和る和ぐれ
於フ三 ようの和ぐうこ

後サ三 ゐのはなぐ　ぬすう中冊
拾ニ二 ゐのはの　ゐのとよ　後はるの
古ニ三 ゐぐれのこゝろやらづ
後三 ゐつ　ゐのはのとゝろ　ゐ
後コ五 ゐ　ゐ　ゐ　ゐ
後コ三 ゐ　ゐ　ゐ　ゐ
後コ三 ゐ　ゐ　ゐ　ゐ
後コ三 ゐ　ゐ　ゐ　ゐ
後コ五 ゐ　ゐ　ゐ　ゐ
後コ五 ゐ　ゐ　ゐ　ゐ
後コ五

古四二三
くらねの峯のうゑ木
後コ四五
立ちくるしほのたえぬ日
古八三三
とう神ふれりあひぬと
後タ四五
旅人の袖ふきかへす秋の
於四二三
くれのそらもとどろに
後表三
秋ちかくなりぬとや
後サ四五
秋ちかみ野もの白露
後コ四五
立田のたかうちこしつゆ
後サ四五
二てのうへの月の
古八四五
そこしもいとなほれぬせにう

後九三三
何も千年の若もとるハ
於表四五
ちとせいのこのもとに
古コ二三
ちとせのこのもとに
於八四五
旅のそらに年をへにたる
後四二三
旅ゆくかりの
古コ二三
それとこそ
於サ三
春をまちてはる
後四三
春の雪
後コ三
春の雪
後サ三
春の雪
古コ二三
神の井にも入るらん
於サ三
その海のそこの波
後四三
ちりてやうの
於三三
春のしら波
於三三
春川は
於三三
春川はなるる海の
於サ三

後サ四五
つ今のしやいそ
於雜二三
ちかの山のこのもより
於表三三
今ぞ旅のしるべ
後タ三三
旅とかりかりの
古コ二三
神の井にも入るらん
於サ三
その海のそこの波
後四三
ちりてやうの
於三三
春のしら波
於三三
春川は
於三三
春川はなるる海の
於サ三
つくられのこのもより

古三二二
つれづれのなかめる海の
後コ四五
なきよりのかなしきは
於サ四五
つくづくとこの海と
於表四五
秋の夕ぐれ
後表四五
海のもとにはかりてとこ
後表四五
つきせぬものはこの海
後表四五
つるなきこの海の
古ア四五
つるなきこの海の
古非四五
つづえのこのもとにつるなる
於サ四五
つのくまうひの弱き
後サ四五
つぬ木こるこの海にうたん

於サ二三
つくしのこの海
後コ二三
なきよりやどりてこは
於サ二三
海の今ハ
於四二三
つるぎ山のとどろにてこ
古二三
海と秋ひとつ
於四三
海ぞ
於サ二三
つるの住ばかりの海
後サ二三
つるの住ばかりの海
後サ二三
つくられぬ
後コ二三
海の今
後タ四五
海も海も
古サ二三
老なるこの海
於コ二三
なきよりやどりせる海人の
於コ二三
つくしの海のつくしの
古コ二三
月ぞのらもしこの
古ア二三
海ぞ
古サ二三
老ぬるこの海
於サ二三
つるの住ばかりの海
古三二三
月ぞ
後サ二三
つれづれと海にうたん
後コ四五
海の今ぞ

後五
あさくに物思ふ我ぞ八ちまき
古五
絶はあまぎる松もとしなり
後七
春はいかの秋ぞかなしき
古表三
つみのみちをとハう極て
後二三
つまもよせるこ島ぐさを
古五
つりれびんの老とあるもの
古表三
わるきことをさのこすなん
後五
わるとらのはのはもを島
後三
ねくれねをまあてすぐ
古二三
わぐとしをふわるを
後二三
あさなを世とハ今ぞ〳〵
後五
秀の命ぞ出ようる名
後七
つれくとうきあを琴れ
後三
秀てひとをふめれ
後五
秀乃をき藏をたけ人を
後二三
つくをの秀くを世
後二三
れぬの瀧とおくれど
後五
わるをの秋をそのをけそど
後二三
わくくをの秀のをあり
後二三
わてもねぞをえり
後三三
つの栄の浦をあり
後三
つとをう表をれど
後七三
月のもを秋をう
後三
月日ともかぞ分る人
後二三
つくをの秀くを世
後二三
つくをねのをれをと
後二三
れをを瀧をとをあを
後二三
わをとをふくれの
後二三
わくをを人を結といの
後二三
なとを松ハ波をん

後八
なとを歌の秀のとする
古五
波りてゆを清を出る
後五
波ひつををひををん
後三
なをを竹の我をのよをハ
後二三
なくの船とわをハ雅をぞ
古五
なをを世年の船をする
古表
なをあう雅波の浦ハ位を
後二
雅波ををもわをば
後五
雅波の浦の清をを我を
後五
波波をを表をん
後二三
波のをを表をを
後二三
なとを松ハ波をん
後五
波のをを表をを
後二三
なをれをを何れをん
後二三
なをを一年の松を
後二三
なをあり人をりと表人
後二三
雅波の浦を三波の
後二三
雅波の浦をあり波を
後二三
雅波の表のをを
後二三
波のをを表を
後二三
波のをを表を
後二三
波のをを表を

後五ウ 波をこさ浦よせくるあハ
後サウ五 波ハくりても波ハざりけ
秋サウ五 波の声をそ聞ゆ
後コウ五 あひこしきしかとくそ
後表ウ五 あひかがくるあらん
秋カウ五 くれて流て牧ものくれ
古サウ二 あるのゆ声をあるあもとゆ
後サウ五 あるあく声のあの苔とつき
後ウ五 あるこ所の有さくもん
後コウ五 あくはをあるあ色もとるん

後ウ五 波ハまもとめよ毋くもむ
後コウ五 波くるこ
後サウ五 波のもとをて
後コウ五 あひこ今夕我ものん
後ウ二 あるめ
後サウ五 あるくあ
後サウ二 あるあ
後サウ五 あるあ
後サウ五 あくあ
後表三 波湖ものくあ
後サウ五 あくあ

秋ウ三 波のようにふ波の
秋サ二三 波ハまもぬれぬ落波ハ
後サウ五 あくあ
秋サウ五 あひ湖のいとあく波
古コ二 くれ川せの泥木
後サ二 くあくて波又の屋
秋ウ五 ものさくあく波妙の
古二三 あくよ
後サウ五 あくあ
古表三 波湖ものくあ

秋コウ五 くくくん流ものも
秋コ二 なくれてとれひくりハ
秋雅ウ五 あくくのあのとや波
後ウ五 れくくのあ
後コ二 なくくくもくひあくり
後コ二 波くりつじくはあれで
古ウ五 なくくの波あくさあくり
後コ五 あれあくはくくあくり
古コ二 あればくくまくれまつくれあ
後サ二 あくくあくあくあ

秋コウ五 流くくくん水のくりくぬく
秋コ二 なくれてくくく

後コ二五　ゐぐ〳〵まくらことぞ恨ひる　後表一三　ゐぐ〳〵の新さよこゝぬ　後サ一三　ゐの八乃葉さの朴
後サ一三　ゐることさ者ゆまくれる枝も　後表二三　ゐぐ〳〵さむ〳〵もあ〳〵ざりつ　左二三　ゐびく　むもはくら兵
後コ二五　ゐ〳〵ゐ毎生八作ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ　後サ二三　ゐゐめて年とゐゐさの　後カ一三　ゐゐ〳〵て〳〵松の孫乃
後コ二五　ゐ〳〵ての世とも恨ゐ〳〵ゐ　後サ二三　ゐゐとゐふゐめ〳〵有ゐ〳〵　左二三　ゐゐ〳〵の世ゐの恨ハ
後ナ二五　文の者ゐゐゐゐゐゐゐ　後サ二五　孫せ〳〵ゐ年八〳〵ゐゐ　左コ三二　ゐ乃の者附乃者

物語拾遺式　巻七

○雜下

左ア二五　ゐ〳〵ゐゐとゐゐ　後コ二三　ゐゐゐゐゐゐ　後ア二五　ゐ〳〵ゐゐゐゐ　左表一二　ゐゐの者ゐ孫ゐ
左十二　ゐ〳〵やいまゐゐ〳〵ゐ　後サ二五　ゐ者ゐゐゐゐゐ　左表二三　ゐゐゐゐゐゐ　左サ一二　ゐ者ゐゐゐゐ
後サ二五　ゐ者乃今ゐゐゐゐ有ゐ　後サ二五　ゐ者ゐゐゐゐ住者乃松　左サ一二　ゐ者ゐゐゐゐゐゐ
後コ二五　ゐ者ゐ〳〵ゐ秋ゐゐゐゐ　後サ二五　ゐ者乃秋ゐゐゐ　左サ二二　ゐ者ゐ〳〵ゐ樹乃
後サ二三　ゐ者ハ中ゐ〳〵ゐゐゐ　後サ二五　ゐゐゐゐの者ゐ者ゐ　左サ二三　ゐゐゐの者ゐ者ゐ
後サ二五　ゐゐゐゐ〳〵ゐ者ゐ　後サ二三　ゐゐゐゐゐゐゐ　左サ二三　ゐゐゐゐゐゐ
後コ二三　ゐゐゐゐゐゐゐゐ　左コ二二　ゐゐゐゐゐゐゐ　左サ二二　ゐゐゐゐゐゐ
左サ二三　ゐ〳〵ゐゐゐゐゐゐ　後コ三二　ゐゐゐゐゐゐ　左八二三　ゐゐゐゐゐゐゐゐ

古表ロ五 うつせみのこの世で君よ着れ 後コ二 折つれば
後コロ五 折ればゆうんなもまくなく 後サロ五 ぬうんぬ君よ思ひ出ぬん 後ア三 折つれば小袖とうれしき
古定三 折ふてこそをうこうんは 於コロ五 折ふてせて久ろ三貫ぞ 於フ二 折ふてし者ぬ有りて
後タロ五 流ふ世て流よ社いれ 於コ二 流も流し山も紅葉 於サ十二ロ 折ふてをぐろ月日
古コ二ロ うばたまの乃黒かをぐろ 古ア二 うきことのとなりひつぬて 於コ二 うばたまの我ころろを
古サロ五 うきもせもたが死世とハ知ぬ 後サロ五 うきめのこ社こて流れ 後サ二三 うきことのハんをろ
古サ二三 うきもうきもつ死もつ乃くて 於サ十ロ五 うきめのこ社こて流れ 古コ二 うきもぬれ〳〵衣
後コ二 うきことの志ぐき宮よハ 後サロ五 うきめのこ社こて流れ 古サ二ロ うきめのこ生てかぐを
後サロ五 其よ世をもうん君と知ぬ 後サロ五 うきもうんしてあ人ることハ 古サ二ロ うきもうんしてあ人ることハ
於サアロ五 其よ世弁とをひきうぬん 後コ二 其よ世とハ門さをりも 於サ二 其よ世よ門さをりも
後コロ五 姫しきと世ろも流ふ君と 古サ一二 姫しきと何よつもん 古ア二三 うしろろうきぞ乃ろ
後サ二 姫きもうきもんハひろ 古ア二三 うしろろうきぞ乃ろ 古ロ二 現とも愛ても知を
後コロ五 うしろ乃くもうにつる乃 後コロ五 うしろ乃くもうにつる乃 於カ一二 うぐろきれきいてを乃
於コロ五 知ぬの君よかるぞ出てて乃 於サ一 うぐろきれきいてを乃 古サ二三 うぐろきれきいてを乃
後サロ五 浦浪乃ことおりひやりて 於十二三 浦浪ぐこ乃ハこをれや 後サ二三 うぐろ舟ぬ君ぞ乃
後月ロ五 うぐろ舟よのりんと乃ハ 古サロ九 浦こく舟のつるぞ乃 後コ二 浦こぐ舟の楫とをを
於コロ五 浦のこ海ぬ乃君きぬん 於コ二三 浦の海ぬかり〳〵なる 後タロ五 浦こぐろ乃ろそふ
古表ロ五 うぐ浦〳〵くもうこ流ふる乃 後タロ五 うぐ浦〳〵くもうこ流ふる乃 後サロ五 浦浪乃のやし世かく
古北ロ五 うつせみそのの麻のきぬ 後コ二三 流くうる舟る乃ををてりて 於コ三ロ 流くうる舟る乃ををてりて
後表二三 桂とをこ〳〵二紫乃ちつハ 於コ二三 うつる平も流て生〳〵 古コ二三 流年のこハきぬん乃

古サ二三
うぐひすのはしるなれどそ
拾コ二三
鄙中もさてくもとび松
後月四五
世ぐひなかつ馬て歩き
古サ四五
世ゐる幸まれそかねぐりる
後四五
みそくへより青柳をとりてぐる
拾サ二三
のどかなれの春こそまば
後コ四五
とひくる後かくくのかりは
後コ四五
といはさくるかんとひ初ぐく
後コ四五
とひ流ることもさくへのかき
後コ四五
とふくと社こまりしら

拾十二
うくて人といんは
後カ二三
うゆて稚る是竹よ
拾コ四五
後のようこそ松とい心
拾サ四五
後月四五
後サ二三
後月四五
後サ四五
後月四五
後サ四五
後コ三
後コ三
後コ三

古二三 沖川波あひはうぶあいの
後サ二五 沖川波もとづくこれて
松サ二三 沖中よりはいあれいでく
松カ二三 大空よりしれらこ川の
後サ二三 大野川志もハ分川しの
古サ二三 大ま〻〻やとーはの山も
古サ二五 老らくあ〻しれ玉き施色
後カ二五 老乃くよかくれ〻さこ武
古二五 併よのこ〻こし波〻〻れ
後三二五 多くの乃とそ〻つる小
松サ二三 沖川波かとれうはよ
後サ二三 沖川波もとづくこれて
古表 沖つ波あまのこ〻塔る
後三二 大海の乃れとこ〻〻
松サ二三 大空とのゆ〻れこ〻ゆ
古二二 大舟のゆ〻れこ〻ゆ
古サ二三 老ぬれはさ〻ぬ別
松コ二三 老て別るこ〻こ〻せて
後カ二五 老乃松こ〻やよれば
後八二五 併よのこ〻ろこ〻せて
松サ八二五 併よのこ〻ろ〻〻せて
松コ二三 軟のいとはこ〻〻ぬハ
後カ二五 併よ〻〻ふんあくて
後サ二三 沖川波かとれうはよ
古二三 沖川白波こ〻〻こ山
古二二 大海のこのこ〻あ〻る
後三二 大海の乃れとこ〻〻
古二二 大舟のゆ〻れこ〻ゆ
古表 老乃松こ〻やよれば
後八二五 併よのこ〻ろこ〻せて
松コ二三 軟のいとはこ〻〻ぬハ
後サ二三 併よ〻〻ふんあくて

後男二五 情を物こそいのちあり
後コ二五 月一長と〻社ろせち
後サ二五 落ら白波乃おとひぐらし
古二五 形ま乃形や社やな是色
松ア二一 ふ川つれいづこなくん
松サ二五 あ〻こ〻しりと云ふとう
松サ二五 おりの〻波乃あ〻ひつき
古二二 ふ〻ら玉藻とりそめの
後ア二五 雲のこ〻こ波やこそん
古サ二五 雲のいづくよりやどるん
後表二五 雲乃こ〻こ〻ふ〻〻ん
後サ二三 落ら白波乃おとひぐらし
古二五 形ま乃形や社やな是色
松ア二一 ふ川つれいづこなくん
松サ二五 あ〻こ〻しりと云ふとう
松サ二五 おりの〻波乃あ〻ひつき
古二二 ふ〻ら玉藻とりそめの
後ア二五 雲のこ〻こ波やこ〻〻ん
古サ二五 雲のいづくよりやどるん
後表二五 雲乃こ〻こ〻ふ〻〻ん
後八二五 ふ〻れ〻〻ふ〻〻れ〻る
後三二 ふ〻れ〻〻ふ〻〻れ〻る
松コ二三 ふ〻ふの浦よ丑茶ち〻ん
古二五 おく〻ふ乃浦きんハ
松サ二三 ふ〻ふ〻ひ〻ふ〻〻ふ〻
後サ二三 雲ま〻ら〻れ〻る〻ひ〻程
松サ二三 雲ま〻ら〻れ〻る〻ひ〻程
松カ二三 雲ま〻ら〻れ〻る〻ひ〻程
古二二 雲も〻〻〻〻〻〻〻〻

後サ一二 雲じとも そゝぬられえん 古另二三
後サ一五 雲のハさゝらゐあれば 松コ二三 雲のいろてハ為じとも
後コ一五 菊のしづくにさらるやハ 松サ一五 菊のうきがもとめてさ
古タ一五 菊の枕はあちこびねば 後サ一五 菊ハもうる春の命ハ
松七 菊の葉もうるひさうと 後コ二三 菊の乃とゝ
後ア二二 菊葉をしゝて 松コ二二 ちるくれ
後タ二二 菊枕 後サ二三 菊乃ま
後二二 おくるおくるしこくは 松コ二三 くれ
古コ二二 くりわびの新とゝ 松サ一五 くりわ
後三一五 くりわびの橋ハ今も 後コ二三 くりゐ

松コ一五 くりゐの後の中ハ絶まい 松コ二三 くゝ
後ハ一五 くゝとも くゝ 松コ一五 くゝ
後コ一五 くゝ 古七 くゝ
後カ二一 くれ竹よりよも くれ 松コ二三 くれ
古ハ三一 くゝ 松尺二一 暗さ
松サ一五 くゝ 後サ二一 くゝ
古ハ一五 くれ 後コ二一 くれ
後つ一五 くれ 後サ一五 くれ
後サ一五 くれ 松十三 くれ
古一五 くれ 古表二一 くれ
後サ二三 くれ 松サ二三 くれ

古代 山ぶかうかすみたりけり
拾サ二三 山ぶかうかすみたりけり
拾表二三 山ぶきのおのえさかりなる
拾コ二三 山ぶきのおのえさかりなる
拾ア二三 山ぶきのおのえさかりなる
拾コ二三 山ぶきのうつろひぬれば
拾ア二三 山ぶきのうつろひぬれば
拾サ二三 山ぶきのうつろひぬれば
古二三 山ぶきのうつろひぬれば
拾カ二三 山ぶきのうつろひぬれば
古二三 山ぶきのうつろひぬれば
拾ア二三 山ぶきのうつろひぬれば

左カ二三 松もひさしの友かとかこそ君といもしつる　後月二三 松の千年も経るかも
左コ二三 松の緑のいつともなくね　松コ二五 松やこてこびせるかる紙　松サ二五 松ぞとしふるかるの
左サ二五 ちつ君を知かなくそ　松サ二五 松ものこと見ぬ君とこそ
松コ二五 松も我とも君とこそ　松コ二五 松ふるしき物とこそ
後サ二三 松ぐるしく絶ぬるかとそ　後コ二五 ちつ君をこそ待つ人は
後サ二五 ちつ君ぬるとこそ絶ぬ　後サ二三 ちつ君を待つ人のこそ
後コ二三 ちつ君ぬれ人はこそ　松長 ちつ君のこぬ物思ふ
後サ二五 ちつ君ぬ人はこそ　左ア二三 ちつ君のこぬ物思ふ
後月二三 ちつ君ぬ人はこそ　後コ二三 ちつ君のこぬ物思ふ
左三二五 ちつ君ぬ人はこそ　後コ二三 ちつ君のこぬ物思ふ
松サ二三 ちつ君ぬ人はこそ　後長二三 ちつ君のこぬ物思ふ

後コ二三 枕のしたにうれしかりしゆめ　松コ二五 又も紙ちらもとうも
左大寿 松二五 離の浦のちつ君を見　左コ二三 ちつ君のこぬ物思ふ
松サ二三 ちつ君のする浦ちつ　後サ二三 ちつ君のこぬ物思ふ
松サ二五 ちつ君のこぬ物思ふ　左サ二五 ちつ君のこぬ物思ふ
左サ二五 ちつ君のこぬ物思ふ　後コ二三 ちつ君のこぬ物思ふ
後サ二五 ちつ君のこぬ物思ふ　後コ二三 ちつ君のこぬ物思ふ
松コ二五 ちつ君のこぬ物思ふ　後サ二三 ちつ君のこぬ物思ふ
松サ二三 ちつ君のこぬ物思ふ　後サ二三 ちつ君のこぬ物思ふ
後サ二五 ちつ君のこぬ物思ふ　後コ二三 ちつ君のこぬ物思ふ
松コ二三 ちつ君のこぬ物思ふ　後サ二三 ちつ君のこぬ物思ふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

古夕ニ五 ふるさとをこそ
古コニ五 ふるさとをこそ
古ハ五 ふるさとをこそ
九男二三 ふるさとをこそ
古ハ五 ふるさとをこそ
古ハ五 ふるさとをこそ
古ハ五

後コ二三 こがくれてくさき川山河 於男二三 おのトくゝく成ゆくべ 於氏 ゝゝ成ゆくべとうたがん
於カ氏五 木ゝくさ れの後そとゝ 於サ氏五 こゝぞくさ嵐の松よ四ゝや 古ア二三 こゝ人人よハ思ひ
於コ三 ゝゝひさゝいゝる宴の 後ア二三 ゝゝ思ひこしゝ入るれや 古サ三三 こゝろさの後の流り
於サコ二三 こゝゆゝさの名ゝさてさうゝ 於コ三三 ゝゝゆゝさの名さ出ても 古男二三 ゝゝの白山ゝ知ねども
於フ二三 こゝしの白山おいゝゝ 古大弄広二三 こゝ海ゝゝ出ゝ 於サ二三 ゝゝ出ゝれゝ
古コ氏五 ゝゝ海のゝゝ 於サ二三 ゝゝ海のゝゝ 古サ氏五 ゝゝ海のゝゝ
古長 九のゝゝ後のゝゝ 於長 九のゝゝ後のゝゝ 於コ二三 ゝゝ川舟のゝゝ
後サ氏五 子ゝ 後表二 ゝゝ世ゝ 古サ三 ゝゝ滝の白玉
後ナ二三 ゝゝ 於表氏五 ゝゝ世ゝ 古サ二三 ゝゝの八重ゝ玉秀
後サ氏五 ゝゝ 後サ氏五 ゝゝ舟の後の白玉 後ア二三 ゝゝ
ゝゝ有ゝ ゝゝ

後サ氏五 これやし世とうゝ後ゝ 後ア氏五 ゝゝより後ゝ称の垂ゝ 後サ氏五 小松原枝ゝ
後コ二三 ゝゝ 後コ二三 ゝゝ月ゝ 於コ三 ゝゝ人ゝ
古コ氏五 ゝゝ 後ナ二三 ゝゝ 後サ氏五 ゝゝ
ゝゝ ゝゝ 古ア二三 ゝゝ
於サ二三 ゝゝ 後タ三 ゝゝ 後表二 ゝゝ
後フ二三 ゝゝ 後コ三 ゝゝ 後サ三 ゝゝ
於表二三 ゝゝ 古コ二三 ゝゝ 於サ二三 ゝゝ
古長 ゝゝ 於フ二三 ゝゝ 於コ三三 ゝゝ
後コ三 ゝゝ 於コ二三 ゝゝ 於サア氏五 ゝゝ
於サア氏五 ゝゝ 古サ二三 ゝゝ 古ハ三三 ゝゝ

左三ノ五 あしひきの山のこずえかく
後サ三 あしひきの山乃山のこずえ
後男ノ五 秋ぞくりそやゆたんとすん
秋の山乃ちりそらぬ
左三ノ五 あしひきの山のゐつらに
後サ三 秋ふるさとの山乃あさ
後コ三 秋の山乃ちりそらぬ
左三ノ五 あしひきの山のやまぢを
後ア二 秋ぞくりそやゆたんとすん
左コ三 秋の山乃ちりそらぬ
後コ三 秋ぞくりそやゆたんとすん
左コ三 秋の山乃ちりそらぬ
後ア二

後廿四五 あくるあさ はこくよりねこの世まへ
古四五 ありとしハされ ここらやもの
後十四五 あくるあさ はこくよりねこの世まへ
松廿二 棒ちひさき ひうなこ
古二三 棒ちひさき ほくら
松四四五 家がくこのまくくさいし
松四四五 教しこさくこ
古廿三 あかれ義よのやどおれや
後廿三 あふ坂のゆふなてゆき
松廿二 あくるあさ はこくよりねこの世まへ

松三三 ありかも彩ことはくさくよ
古四五 ありとしハされ ここらやもの
後二三 おくるあさ はこくよりねこの世まへ
古二三 ありそめ命待ち
古廿二 棒ちひさき ひうなこ
松二三 棒ちひさき ほくら
古四五 焼ハくるうこ地ハなし
古長 表てふとといひつ
後廿三 表としもしとも いと
古廿四五 表てふとといひつ
後廿三 表てふとといひつ
古二三 あくるあさ はこくよりねこの世まへ

後男四五 あくるあさ はこくよりねこの世まへ
古四三 あくるあさ はこくよりねこの世まへ
後廿二 あくるあさ はこくよりねこの世まへ
古四五 あくるあさ はこくよりねこの世まへ
後二二 あくるあさ はこくよりねこの世まへ
古四五 あくるあさ はこくよりねこの世まへ
後廿二 あくるあさ はこくよりねこの世まへ
松二二 明日あくるあさ はこくよりねこの世まへ
松二二 明日あくるあさ はこくよりねこの世まへ
後二二 あくるあさ はこくよりねこの世まへ
古長 あくるあさ はこくよりねこの世まへ
松二二 あくるあさ はこくよりねこの世まへ
松廿四五 明日あくるあさ はこくよりねこの世まへ
松表二 明日あくるあさ はこくよりねこの世まへ
後二二 あくるあさ はこくよりねこの世まへ
後二二 あくるあさ はこくよりねこの世まへ
古長 あくるあさ はこくよりねこの世まへ
後二二 あくるあさ はこくよりねこの世まへ
松廿二 あくるあさ はこくよりねこの世まへ
古男四五 あくるあさ はこくよりねこの世まへ
古男四五 あくるあさ はこくよりねこの世まへ
古男四五 あくるあさ はこくよりねこの世まへ

秋コ三五
あやしくもうゑもとうゑ消ゑ
秋サ二三
あくるとけくるんうぐるふ
古コ二三
あくるうのゐるのゐぐつる
後サ二三
ゐくるるのゐもゐ世ゐんば
秋サ二五
ゐうしもゐ世ゐるうぐゐ
古コ二五
あやかくるゐ世ゐ流くるに
古コ二五
あかいゐるるゐるるきるる
後コ二三
あるるゐるるゐ世ゐるるる
秋サ二五
さるくるる世ゐ世ゐるる世
後コ二三
さるるる世ゐ世ゐるる世
秋サ二三
秋サ三五
後サ二三
秋サ三五
後サ二三
秋サ三五
後

古大雅伝 ○ 古力 ○ 古長
○ 天とぶやとりにはあれど ○ 天のこゝ千世とぞ
拾サ ○ 天の千世とぞ祈りつゝ ○ 古大雅伝 ○ 天のこゝ八千世にぞ
後 ○ 天のもとの弱もとゐか ○ 拾力 ○ 後表
後力 ○ 天の千年をあぐるやハ ○ 拾力 ○ 天のうはまとを
拾サ ○ 天のうきよをきんこまくきて世 ○ 後表 ○ 天のうはこゝ方ぐるぞ
拾コ ○ 天のひゝ世数乃ゆゑに ○ 古八 ○ 天のすゝ雅ものこせん
古長 ○ 後男 ○ 天のこゝ八千代をとゝつゝん ○ 拾サ ○ 天のうゝ乃わかゝ
古大雅伝 ○ 天のまつゝん万代をぞ ○ 拾力 ○ 天のうゝ
拾力 ○ 天のゝんやとゝろ川をを ○ 古表 ○ 天のうゝ
後男 ○ 天のうゝ川 ○ 後コ ○ 天のうゝ

後サ ○ 天のゝ乃家乃こハ ○ 後コ ○ 古力 ○ 家の雅樂之
拾長 ○ 天のゝの雅樂之 ○ 拾表 ○ 後
後コ ○ 天のゝ松樹とゝ ○ 古コ ○ 天のゝ
後サ ○ 後ゝ ○ 後表 ○ 後
拾サ ○ 後ゝ世とぞ恨しる ○ 後サ ○ 後ゝ有と
拾サ ○ 本よもなひと ○ 古フ ○ 本ゝ
後コ ○ 後ゝ ○ 拾サ ○ 後
後ハ ○ 後ゝ ○ 後コ ○ 後
後ハ ○ 後ゝ ○ 拾サ ○ 後
後ハ ○ 後ゝ ○ 古コ ○ 後
古コ ○ 後ゝ ○ 後コ ○ 後
後ア ○ 後ゝ ○ 後表 ○ 後
古コ ○ 後ゝ ○ 古コ ○ 後

後コ五五　君をとのこゝろとそこゝろとてこゝろ
後表五五　君をうつしとも別とゝろ
後男五五　いろをよ敷とおもせつゝ
後男五五　いろ素のたゝなるけしとと
後男五五　いろめぐりてもかどゝゝ
後男五五　いろをもの一ゝ
後コ二二　いろくりてもゝろん
後コ二二　いろをもの
後コ二二　いろ志ゝねば
後十二二　いろをゝ
後コ二二　ゝ
後コ二二　ゝ
後コ二二　

[illegible]

[illegible]

[illegible]

古コ二三
ゝやまのうくれの若なれや
古ア一三
ゝやまのうちのおらくるあの乃
古コ四五
ゝらそねなのさひるゝ
古コ四九
ゝし人ゝて
古後四五
ゝれが湖乃遠おゝろ
拾三四五
ゝおゝそちゝゝてけん
古コ二三
ゝちのくの若のゝりゝ
古大寿四二
ゝちのくあゝらゝ
拾サ二三
宮ゝくゝひゝのゝくゝの
拾サ二三
ゝむゝろ乃ゝやゝゝん

拾サ四五
ゝゝのひゝゝゝ折ん
拾サ二三
ゝゝゝし川なゝ
拾サ二三
ゝゝゝ
古大寿四二
ゝゝゝゝゝ
拾サ四五
ゝゝゝゝゝ
拾サ二三
ゝつゝゝつむゝゝゝ
拾サ二三
ゝつゝゝゝゝ
後ク四五
白雲なゝゝ我やゝゝん
古サ二三
白雲乃ゝゝゝゝゝ
後サ二三
白くものゝゝゝゝ
拾サ二三
白なゝゝゝゝゝ
拾サ二三
白妙乃いもゝゝゝ

古コ二三
ゝ世川なゝ
後八四五
ゝよゝ神ゝ
拾八二三
ゝゝゝ
古コ二三
ゝゝ
古コ二三
ゝゝ
古コ二三
ゝゝ
古大寿四二
ゝゝの
古コ二三
ゝゝ
後サ二三
ゝ人ゝゝゝゝ
古コ二三
ゝゝの
古コ二三
白波乃ゝゝゝ
古コ二三
白雲乃ゝゝゝ
古コ二三
白波乃ゝゝゝ
拾十二三
白妙の神ゝゝ
古ア二三
白妙のゝゝゝ
後タ二三
白糸ゝゝゝ

後コ二三 白糸のうつさぐるこゝ地 後フ二三 志ゝがの数とまち侘ぬこと 古長 白山のゝ山ハ白く
古定四五 志ゝく咲るなゝめの花を 於コ三四 志ゝくおらんこゝハくも 古コ三四 志ゝくおらん郭公ゆゑハ
於サコ四五 志ゝ心と爰世とゝめつゝ秋こそ 後サ四五 ゑれ侘ぬ山と爰もゝれ 於コ三四 えやゝえ初やいこ
後サ四五 えつゝ初めもあふ坂乃せき 後サ四五 ゑれ侘ぬ山と爰もゝれ 後サ四五 ゑれ侘ぬ山と爰もゝれ
於表二四 志ゝさゝこのまてゝ志ゝて 後ナ三四 志ゝさゝこのゝ山のゝ山ゝ押ふよ 後コ二三 汝やく海人の苔衣
後コ二三 汝のゝ山ゝ山ゝ山ゝ山ゝ 後コ二三 汝やく海人の苔衣 後コ二三 汝やく海人の苔衣
後サ二三 汝とゝ人ハなゝ山ゝ山ゝ 後コ二三 汝やく海人の苔衣 後コ二三 汝やく海人の苔衣
後コ二五 汝なれうとゝ人やゝ 後コ二五 汝なれうとゝ人やゝ 後コ二五 汝なれうとゝ人やゝ
後サ二三 志ゝがくれ行ゝ毎 後サ二三 志ゝがくれ行ゝ毎 後サ二三 志ゝがくれ行ゝ毎
於サ二三 志ゝくれ行ゝ毎 於月四五 志ゝくれ行ゝ毎 於コ二三 志ゝくれ行ゝ毎
古六二三 志ゝくれ行ゝ毎 古六二三 志ゝくれ行ゝ毎 後コ二三 志ゝくれ行ゝ毎
志ゝくれ行ゝ毎 志ゝくれ行ゝ毎 志ゝくれ行ゝ毎

後サ二五 ゝ紫ゝ志ゝ志ゝ 後サ二三 志ゝでの山ゝどゝ志ゝ 後サ二三 志ゝでの山ゝどゝ志ゝ
於サ八四五 志ゝ志ゝ山ゝ山ゝ 於サ二三 志ゝ志ゝ山ゝ山ゝ 於サ二三 志ゝ志ゝ山ゝ山ゝ
後コ二三 志ゝ志ゝ山ゝ山ゝ 後コ二三 志ゝ志ゝ山ゝ山ゝ 後コ二三 志ゝ志ゝ山ゝ山ゝ
後コ二三 志ゝ志ゝ山ゝ山ゝ 於尺二三 志ゝ志ゝ山ゝ山ゝ 於尺二三 志ゝ志ゝ山ゝ山ゝ
於コ二三 志ゝ志ゝ山ゝ山ゝ 古長二三 志ゝ志ゝ山ゝ山ゝ 古長二三 志ゝ志ゝ山ゝ山ゝ
古長二三 志ゝ志ゝ山ゝ山ゝ 後コ二五 清れまゝし新とゝ志ゝ 於サ二三 志ゝ志ゝ山ゝ山ゝ
後コ二五 清れまゝし新とゝ志ゝ 古月二三 志ゝ志ゝ山ゝ山ゝ 古月二三 志ゝ志ゝ山ゝ山ゝ
於サ二三 志ゝ志ゝ山ゝ山ゝ 於サ二三 志ゝ志ゝ山ゝ山ゝ 古サ二三 志ゝ志ゝ山ゝ山ゝ
古大寄二三 志ゝ志ゝ山ゝ山ゝ 古男二三 志ゝ志ゝ山ゝ山ゝ 於サ二三 銀のゝ山ゝ山ゝ
於コ二五 人のいのゝ山ゝ山ゝ 後コ二三 志ゝ志ゝ山ゝ山ゝ 後コ二三 人ゝとゝ山ゝ山ゝ
古ハ二五 人のゝ山ゝ山ゝ 古ア二三 人ゝとゝ山ゝ山ゝ 於コ二三 人のゝ山ゝ山ゝ

人なくしもあらぬ物ゆえ　古抄二二
人とぐめんはあらぬよ　古男二三
人見こいつまも成なぐさ　後サ二二
人のうきはし成　拾サ二五
人のかたしもなぐさ　後カ二五
人もなよ成我やとの　拾サ二五
人いさんも余もと　古ハ二三
人の泉もつきやこぬん　後表二五
人まくこんはどがれも　古サ二三
人も通ぬるかれや　古タ二五
人みハ生なよ成され物毋　古コ二三
人のこんいむをろの　古コ二三
人のよ成ぬ成つ人ぬ成　後サ二三
人ぬさ成ぬ成ぬ語り　古コ二三
人のこゆもあしとで学人のんいそれでよの者　拾サ八二五
人のこんいそれでよの者　後コ二五
人ぬさ成ぬ成ぬ成ぬ成　後コ二三
人のこんいそれでよの者　古

古サ二三 引てさらぬ布ぬれや いくたびぞ
古ア二三 おもてをあらはすなみだ
古サ二三 おもかげ
古サ二三 おおりの袖の
古サ二三 あハなどかめてもたゆ
後コ二五 ふるさとの
後コ二五 ふるさとの
後コ二五 ふるさとの

○諸抄註釋之詞撰萃

いさらめ　うそ　いはつ　ぱ　年老たる人　ぱ　別脈云はは　云はは　ぱ　ぱ　ぱ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

とぐろ訪　とを　十尾と出り赤蛇の殺のさはむしこと云も同　とはな　つのと　きんし　とこと
因上常不止　とうろう　とあむ　ひくく　とこさで　ぜとも　かく　ぜとも　おきこ　いつとも　おき
とふのぬぐでも　こちろろくくうるいつるとうりをけとりてめこうこと
ぜ他馬なち　もしこものめと十まあこうるし八雲云陸奥さうこう
ともうめうり　とまて　八雲云田うるまし秋田　とこと　八雲云一のふる
とこさいかるくふとぬり　うとこまてともいうり　うるとまてとも　又もんて
菱茅かとをいふし　とこよあ　ねとこよあねと云　とよのこそ　ぜ大聲云の
作稜　ともちつ雪　陰し雪のきしもをて又陰へき雪と　とかりのふえ
向秀期といあねうこうよ　ぜいやふくの　ちくさま　八雲云やうくまと
あうとまうて　嵇康う死後まいひぜうこ　ちくさし　いふんし
ちくさ　千雑とうろう　このんし　ちかまこ　八雲云やうくまと　らびきのいし
千八して　ねれぎぬ　なくこ　ぬぐいの　きれる　去の代嫁をう　ぬうげく
引ふし　ぬうは額し　れをとすし　因縁　ぬぐいの　きれる　去の代嫁をう　ぬうげく
ぬうは額し　れをとすし　因縁　ぬぐいの　きれる　去の代嫁をう　ぬうげく
ちうのこ　ふくしとも　後り　をこ　やし　八雲あひ　とのうきく　各競己自恣あ
をうし　とのうきく　各競己自恣あ　うこうれく　遊

とうきひ　老てうろ　をちうこ　八雲彼方　をちうこ　八雲を遊し　をち
やくとこし　しこいし
八雲をて八をこうるとこ云ひるうりとこ　をちうこ　をちうこ
さきこいふ八ふるこ　ぬうこといふ　ぬうこ　をちうこ　をちうこ　ぬうこ
とてうるや　とてうるや　雅陽　うこうる　雅陽　とこ　新陽のさこ
如推出　とこ　こ一涙うし　ぬうこ　ぬうこ　ぬうこ
海の蛇　ふうとき　とふ　ふうり　とハ小こ　ふうハ　とのうなとふぶう　ふうこ
ふうとき　とふ　ふうり　とハ小こ　ふうハ　とのうなとふぶう　ふうこ
とぐろやのみ　庫と鉄を藏う　ふうこ　ふうこ
病筆とうろう　美の比喩を　ふうきし　ふうこ　ふうこ
石戸の節をて　祈糸し　ふうこ　ふうこ　ふうこ　ふうこ　ふうこ
してのんし　ふうこ　ふうこ　ふうこ　ふうこ　ふうこ　ふうこ
又ふうこ　ふうこ　ふうこ　ふうこ　ふうこ　ふうこ　ふうこ
とハ戸絶　ふうこ　ふうこ　ふうこ　ふうこ　ふうこ　ふうこ
つうて　ふうこ　ふうこ　ふうこ　ふうこ　ふうこ　ふうこ
うて　ふうこ　ふうこ　ふうこ　ふうこ　ふうこ　ふうこ
のんも　ふうこ　ふうこ　ふうこ　ふうこ　ふうこ　ふうこ

かもなどゝくもるゝ　うハやしろ　後成宮後ゝ川の宮御ゝ者さうく後陽ゝ
孔雀洗れのゝ社を　川の石屋となる　祈功宮応平新殿宮
祝ひて云神示もゝとゝ云　技国立人ゝ[illegible]の初し　うゐだれ
うつくゝゝき花　うゐ者ゝ　麦とり　ゝ[illegible]　うゝて　ゝ[illegible]　壁もぬる地なりうゐてゝ
うとゝうゝてゝるとゝの　八雲云昆ハ[illegible]　ゝ番人ゝ也と云ゝ　ゝて我ゝ皆人ゝ
世を乱し　うひやゞゝ　後成宮後ゝ[illegible]　ゝ[illegible]
ゝゝゝしゝゝゝ　ゝ[illegible]　ゝ[illegible]　ゝ[illegible]
ゝゝゝ　うゝきのゝゝ　ゝ[illegible]
ゝゝゝ　ゝ[illegible]　ゝ[illegible]
ゝゝゝ　ゝ[illegible]　ゝ[illegible]
ゝゝゝ　ゝ[illegible]　ゝ[illegible]
ゝゝゝ　ゝ[illegible]　ゝ[illegible]

ゝゝけゝ　片設とゝゝゝ　ゝ[illegible]
ゝ二ゝ　ゝ[illegible]
あゝふ　三月三日ゝ人の舟ゝ　ゝ[illegible]
ゝ[illegible]　ゝ[illegible]
ゝゝ　ゝ[illegible]　ゝ[illegible]
ゝゝゝ　ゝ[illegible]　ゝ[illegible]
ゝゝゝ　ゝ[illegible]　ゝ[illegible]
ゝ

うごの海とゝめ　あふみのうゝこの海をとゝめ
くゝて乳あらうことあり　うえやし　八雲さしこの
抄うえやしといふ　くゝのさらびひ　孔伯云抄清ゝ
おとゝと云　もいそあの出家　ゝとかあり　ゝうえ
いつゝさゝいし　俗語抄云いゝとゝ　ゝとかの
ゝるひとゝそのあの水ゝるとゝ　ゝとかの
ゝゆゝ　ゝふゝ　ゝいゝ　ゝいゝ　ゝいゝ
ゝぶゝ　ゝし八雲あそぬ　ゝいゝ　ゝはゝ
し凡流ともゝり　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝる　現極と出て　命のとゝ　ゝし又
ゝゝ　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝはゝゝ　西郷よゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
宇あ極対し仍ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
いゝゝとゝゝゝれゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
おゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
のゝいゝ　ゝのむゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝり合て抄ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

そがさく　そうさく　後くあり　一説承和の帝菊なりと　と好あせのそれハ黄菊と
又説　世のそうひよあり　そうさくとつかそう菊ハ承和菊とつかてこし　一説一ぬあるそうと云
さくとそうと　そよ　そうくし　そよ　そうくし　そでくられて　そうくしてこせハ紙の下
さや同　そでがさ　紙を笠にして　うけくとつかそて　つく　紙つくハ紙のあるつくし　唐風川紙つくり
と作り　紙つぐ　紙続し　紙をとりつぎとし　つくづけさ　一説つしのうさ　つくづけさ　つくびさ　新乃ひさ　つくれよ
とそうし　八雲さく　茅ありてつくぬる紙とそり　紙乃ふれしく
又説　として握ると二つ二つとと云　其つれるく　紙をきんく　つくまれ　近にのつくま
つくよ　女の男ちつる　数土そ　ぬべ　とつくりていさとと云　稱りて　縄乃なさ　時本茅乃枝と稱りて　なくくれつく　人命よりも命ハ
らんそよ　名くくる　名よくし　名くるんや　なんよ　同　なつまれなさけ　好ハる
とそうくし　なかれく　泣ぶ　なとに作り　なれ世　なちあく　媚の字　やさしきく　又
なるんく　わるくる　なくし　又
えんさうにきし　なぐれての世　なくくての世　又色ちり世　なぐむ　なくく

八雲　なぐ　なんぞ　何の字　なつそひ　農すく田　とつくるく
なつくり　八雲　なつくり　又変もる　物ちつる　苗　作物曰　人もあれと　作ひつくし　なつそう　麻の苗
なつ川の糸　夏川　糸し　なぐつくふ　なれむ　なぐやこハ　なんそやこれと　いよんし
なぐろ　波ちつ　犯なくさくし　なぐ　なくひとのうも　なひとハ甲斐のくふ乃名所　其所の米とうもよなくて　衣
み用　なくくつかゆめ　彼　くと　刺しつる　なくのうこ　人　晋の代の竹林の七賢
むつごと　むつまし　言　むつまし　諸国　勅使たりの　むつまし　やさしく
ひのもとと云ハ勅使の来りの　むつまし　むつまし　むつまし　むつまし　むつまし
或説　ひ　説ちり　説ちり　説　説　説　説　説　説　説　説　説
ひややと　ひややと　ひやや　いやや　ふのむ　むやや　むやや　むやや　むやや　むやや
ふと云　むやや　ふのむ　むやや　むやや　むやや　むやや　むやや　むやや　むやや
衣とつふ　奥玄扇　名米の衣　ときて人と稱りれハあせる　ひろのやし　海　下地の
名のつりてきねさうつる　ときて人と稱りれハあせる　ひろのやし　海　下地の
中よ海あり　信よむろのやし　海とつふ其海よ清れあり　ひやびとる　舟ともと一説
それり　岩　家のろう　嬢よ似り　ときて又説　海どとつふ　ようかさ　せ

て蚕
ひ〜さきのとうび 朗源よりは蕊蘭蕚蘭と
いかうとり
ひ弘ひけ 鹿よりは萩蕊と
鹿の鍋とて分れし
ひつ〜さ
ひ〜されのさへさと
ひさとろ 蕊よりは核の皮と
さいてそひれいし
うつ〜のえい
蕊は黄と稔り付米とをうして鍋ようて撃ようて
ろ時大豆とつ〜ぬきてうとの
やうてそあゆうとあうとき
うゐの世 のゐは枝
左のうし
うさ 泥と云は田乃
うさ
うつぶそあ
かぞめくろ
とは宗の字し
うつ〜れうとうとう
うつ〜
うつ〜
うつ〜

[illegible]人大内の西殿まえ和の歌ゆうりくるまみてのうちうにていとゆうしけりく
女の事をとこそは男云ゆうくくと男しのつかれよりあり[illegible]我ゆみ世[illegible]
てとて弟をとられて女の弟よりうくていうりく長後年にて又大和ゆうる
とてみそのらうりみて弟と云てしみて逢うることあり
のかりれ志ぐつそうゆのくるのまのうりむしハめてきあうそ
ゆうるく妹あれと者と仕人ゆうあてのくるく
のりりのりぐを 雄略天皇みよ[illegible]
のりりとて[illegible]
めへハけみよ結ろあるくろの新うつ
てみくよあるれとちしくろのみ
おほかいかくとおりりぐちやふぐしおくちのくを おくをりる 八のくりくきし
又女ともいつる
おやなのしみて 八年に元八年後るといふさし おくろりりくをりりとくしく
おやかりといへいちんし
又伝志ごのすし又ぎ金い又ちくひのおひくるをもくおおくるとゆ乱世さら髪
似られいすと又一伝出雲の髪抜ろくとかれおくるよ似髪ゆいふといり
おぐろのをこをといやし かりの 天子きこしめすこ おほきみ 万葉大伴舟と
伝食すし ろうりる或物よ

そのめさて
伝舟といふ おむぐりとりのをひぐさ 結ぐりとりとゆくも定ゆ
大伴の田ちとをくを人ゆ男なりちりとをれ川の女命をひりなてとりの子女は飯せてる
実と乱よきくり田をちしてしてゆくへしりれ女ちの作りをそのこと
逃てをいのをと結てつりハしりりをれ略おそいりくそと
いふ歌し物ハさハをて結ゆて後ゆくひあゆをと仍さくそを
くぐちりくりくし 歌のかけりとをし
のりでりを おむとハきぬきれは深草て重て用
りん料はもちりて 結平物りそ
りりりりあとをり 結ぐりで とくりつ物つよ
くれをりりめや くれをどりあや むく是爾りりくれをりりあや
といふつけ結りし くさのあをじ菊と いふ くりのりをて 夕のくりりりりて
おくるとりて
やくしやくしやりりをつきて 山のくりをひつきて
やを乃つりさ 八そ子孫八十代まて久とをりし やそりり人 八十氏人りる つの人し
やそのちまるを乃のちまるのや 多し やもをを 八隅くを方を隅くをりると 八尺の天
下と治めをりると云へく

やまどりけおろかなるもの　出雲の八尾の井まなるべき
やさしさ　世俗之行やさしきんを用　やそともの　八十の男なり
やぶこうぬ　藪入をうりてくまをたれとそのやぶこ　やうこかのさう
し　書乃尾の矢若の敵のやうまのこれをいふ　やどりせ　やどもせ
一説屋敷尾やうこのやねのこをふのこれをいふ　やどりせ
屋もとをさしいふるし又の説　やかせの波　奥をやかせの波八重こうさねく
りせハおりてといふるし　やかせの波八重こうさねく
おとりもむ　物をいふ　おごちつく　古義ちり四条
うり吸ねと云
おとこのこ　戎物焼のこをくらう　おごぬかく　くろうまと
うくきをわ　きをとこ　おごさき　おつくさよ
うくのうとをろ時木草乃枝をこ　おごさき　おつくさよ
うをくく　我袋のこしぬやこれ新とうをこ　おつくさよ
ひめ　大体依機に表とうふ人遣庵彼よてりろこをまこうり仕うろ時をその
書のさうひめ石物情て松浦山よりさるのひをうをて舟とねーゆうり
まふく　説をさうろうをれうまこ　舟の帆とすくろくろ
こし又乃乃をもかくよろう　まは　とまはとらへ和のう

ひろうとまりとしひ豊かなると　まくりて　雑まろう　おとこ　奥居とうろうまあ
こうをとしふ雑説あり略之　くかくふかるもし
まるうん　八まをうこ　人八左の肩うの内しこ　ろう
うんし　まゆねうこ　八雲出物ふ人行かしとこ　ろう又人とこ
ひしをろわし　奥八銀とこ　なくこ云ふくこ滅
なくこ　相しとこ　ろけふ　それうう　勝の字こ　けふ　ふさこうあうこう
こうふ　くふのろをこ布　奥表ろう　いうこうこ　くふ八狭の字の声こせ
ろし　ふ　ふ　ふ

えやいぶき　とりかぶと伊吹山にはえもいとれん　てもとゆよてもやとろ
てふのゆめ　荘周う蝶となりて　百年を浮世と思ひなすし　てもとまるもゆりてもやをもとし又
あやめもとろあ　知のあやめ　菖蒲　あさなけ　八雲あさなけ　又説　朝夕
あさけ夕食　朝食夕食　あさごはん　朝よりうる　あさいのをぐさ
朝の粥　あさうぶ　朝よりうる　あさいあさ霞　あさうハとろう　朝よりうる川し又
浅さ川よ浅る　あ〜もう　あ〜もう　あざむく　をもろんし又ものとつうもろ
もあり　あせ　あせるやうのんし　あさきる　八雲ことろたたとうもかうもろ
あさはり　あさき　あかるあ　あかりし　あやあ　むやくし又和の絞る　あきん
あぐ　田舎　あぐるく　あまるろ　その方　あうあもせね
あるあも　あうよ　世し　あうよ　あるあ　あうよ　あるあ

[illegible]人のそとの家とうとて千浮は
[illegible]とうこと[illegible]一義[illegible]のちくうさ あまつ乃さうて 神こさるとのろふ
あるさ目新[illegible]（[illegible]）[illegible]とい[illegible]し 天とつてひゆ〳〵日と いふ[illegible]し
あまよ乃川つうふ浮 [illegible]武帝の[illegible]時濃蠶[illegible]人 [illegible]て天[illegible]ひさ あ[illegible]ふ[illegible]ん
せ[illegible]し文[illegible]あ[illegible]も用 あ[illegible]もよ[illegible]の[illegible]し文[illegible]
又[illegible]ひさ[illegible]ひさ[illegible]ぬし 神のちひ[illegible]ト[illegible]河取[illegible]
あ[illegible]乃せ[illegible]と[illegible]し あとハの神よふ[illegible]ひさ[illegible]
[illegible]ひ[illegible]れ 和日の新のさね あ[illegible]ふ[illegible]
[illegible]ひ[illegible]れ[illegible]

あゆごくひか鮎と めめ乃ちて[illegible]て八[illegible]判[illegible]天の[illegible]八[illegible]判
[illegible]と[illegible]き 鹿と磐[illegible]て[illegible]
あ[illegible]乃そ[illegible]ね 朱[illegible]の[illegible]
さち 幸し さや[illegible]
さしぐ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
さ[illegible]の[illegible] 八雲 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

つるしそれと注をうちうして　そをさ世こうとやきてさりとうふ男はくんやうを雲か
是八やうて山おうて男くこうちうこうとて　そうさもうあくあうめ山かこの拾遺こし
ひらがさ　毎　敢よ毎のうりてうさまう　毎こうこし　那拾ひひ
ひさうこうこうこうこうきんやし又　りくさうづう　雲よ落り数　りとの
のくさくうさ　ふうさうようりうちのの　のとくぐらめ　ねめくうてを云
りかう　云弁　とうくうり八雲こ見ふりの　なるこし
弁とうふとあれちよ藤よ落りりうこうのうかくこ
八雲こりしよ云井このあうふ　せうつむ八雲こ見つむもと　りうこと
あくしこうせてのうとうくこ　うくのうのうくこ有由緒貫
情備　せうりうもとくこも　はこ八せうりうこ玉大院こ　もこのまつこ院
こゆるひうくこ男女のりうくうこ来のねこ　こさうこ院めくえ和んけて
うなこあくくんうりしこれこ人のくんのうくこ　のうくこ　とのねこ　このこ
もとぐうのとくこ　為のかこうこ　ねこのくうこ　こいうくうこ　りう
又云井ふくとくうと院るこ云の蜘蛛こやくて

あと
ふとさわぬ　ふ変し又ひてふて　集の雲こ云て
又めもこてぬし　もうくうんこ　なし
せんうこのなくこし　もとぐうこりてふ院板板りて
又とくこくこれこし　もとくこうこ門
あのふこ三偏の　もとくこじ　あのもとうこ
ふ藤こ云こ一月年　毎のうくうこんとこ　ふ毎こ云こ
もとぐくこくふ　もとうる

元禄九歳次丙子仲春彫行

安永二歳次癸巳季春再校

弘簡堂藏版

京都
書林
三条富小路東入廿三番戸
須磨勘兵衛